

偏差値40以下の落ちこぼれからTOEIC990点満点・英検1級を余裕で一発獲得
いまや学校の英語の先生も学びに来る、初心者も短期間でネイティブにする
英語界のブラックジャックが断言

注意 流して聞くだけでは絶対英語はしゃべれません!!

安心・勇気、勉強したい?
ネイティブにするプログラムがここ

藤永 丈司
Mr. Joji Fujinaga

もう、間違いだらけの英語学習法は
今すぐ止めてください!!

流して聞くのではなく●●すれば、英語は100%できます。
日本人が大人数になって英語をマスターするには、
この方法しかありません。

勉強なし、苦勞なし、挫折なしでエンジョイしながら、
英語がしゃべれるようになる。
秘密のレッスンを無料で受講してください。

TOEIC・TOEFL
英検・ビジネス英語も
怖くない

2014年夏、日本人が知らなかった
究極の英語習得法を公開し、英語難民を救った
あの超人気プロジェクトが圧倒的リクエストに
お応えして帰ってきた!!これがラスト!?

今、登録すると...
**6大特典
プレゼント!!**

新型ネイティブ続出の伝説のプログラムを期間限定で再公開。
新型・ネイティブスピーカー養成プロジェクト第2幕始動!!

Lesson4

全貌公開!!

「新型ネイティブスピーカー養成6ヵ月プログラム+」

渕野：こんにちは、フォレスト出版の渕野です。

柳田：皆さんこんにちは。ナビゲーターの柳田です。そして。

藤永：藤永です。そして。

平山：プログラムのお手伝いをさせていただきます平山です。よろしく
お願いします。

渕野：今回4回目ですね。こちらがNS6ですね。このプログラムの全貌を公開
するということになりますね。ついに。

柳田：今日はどこからですか？

刈野：ハワイから。

藤永：ハワイロケですよ。飛んできました。

柳田：お金かかっていますね。

藤永：めっちゃかかっていますよ。

柳田：というのも、みなさん T シャツまで。

藤永：はい。

平山：お揃いを作っちゃって。

柳田：オリジナルで。

藤永：オリジナルで。おわかりだと思うのですが。シールを貼っただけです。(笑)。

平山：言っちゃダメです。(笑)。

柳田：しかもちょっと寄ってください。ここを見ていただくと。

藤永：寄っていただくとわかると思います。

平山：手描き！

藤永：手描きで「NS6+」です。

これですね。はい。これが 1 期の時とちょっと違くと。これはのちほど説明させていただきます。

柳田：NS6+の全貌公開ということですね。

刈野：今回から平山さんも加わって、アシスタントですね。お願いします。

平山：はい、よろしくお願いします。

渕野：平山さんが本当に素晴らしい方なんですけれど、プロフィールを知らない方もいらっしゃるかと思いますので。平山さんが一番凄いのが、FIFA ワールドカップ 2002 の日韓ワールドカップの英語総合司会者。

平山：はい、そうですね。

柳田：凄い。

平山：皆さんあの時の試合はいろいろな試合をご覧になっていたと思うんですが、日本戦も含めて。決勝戦とか覚えていらっしゃいますか？

藤永：ああ！

平山：絶対覚えてないですよ？（笑）。

柳田：サッカー大好きですもんね？

渕野：あのボレーがね...（笑）。

平山：ドイツとブラジルが決勝をやりまして、その時にゴールのコールとか全部やらせていただけてます。「Go for Brasil Ronaldo～！！！」とか。

藤永：おおー！ 大五郎カットのね。

平山：そうです！

藤永：はい、覚えています。

渕野：素晴らしい。

柳田：そういえば半年前もやりましたね。Goal For Brasil！

藤永：やった！ たしかに。もう 6 カ月ね、たちました。

渕野：あとはバイリンガル司会者としてご活躍だったり、あとはテレビ関係の

お仕事とかもかなりやられてこられてるという。もう素晴らしい。

藤永：素晴らしい。

渕野：そんな平山さんにも今日は加わっていただいて NS6 のアシスタントとして、サポーターとして協力いただきたいと思います。

平山：よろしくお願いいたします。

柳田：相変わらずちゃんとしていますね。渕野さん。ということで行きましょうか。

藤永：ちょっとごめんなさい。みなさん、その前に大事なことを忘れていると思うのですが、平山さんにちょっと T シャツじゃなくですね。

柳田：ちょっと寄ってみてくださいよ。

平山：オリジナル衣装つくってきちゃいました。

柳田：こんなワンピース売っているんですか？

平山：ちょっと一つだけ言っても良いですか？ これ私のだけ＋が付いてないんですけれど。

柳田：それは、あとからつけます。

藤永：危ないですから。セクハラになっちゃいますから。

平山：了解です。楽しみに待ってます。

柳田：もの凄いプロ意識ですね。さすが。

平山：これで来ましたから、今日。

柳田：もう一つ渕野さんがどれだけ愛しているか、NS6 を。見てください。

刈野：これは電車の中で常に。

藤永：この T シャツとこのパソコンで、通勤はこれで。

柳田：それぐらい関わっているみんなが愛しているってことですよね。

藤永：そうです。それでわかるのですが、あとからわかるのですが、どれくらい人間が関わってきたかと。

柳田：本当ですね。

藤永：本当にビックリされると思います。

平山：壮大なプロジェクトですね。

柳田：今回ハワイロケだから、そうとう現地の人たちも手伝っていましたよね。

刈野：では早速行きましょうかね。

藤永：はい、行きましょう。

柳田：もし英語ができれば。これはほとんど日本人が思っていることですよね。

藤永：そうですね。

柳田：これは今までのセッションのコメントでも沢山ありましたけれども、みなさんやっぱり僕らの想像以上にほとんどの人が出来たと思っていますよね。

藤永：そうですね。でもどうやっていいか分からないというのが一番大きいですよ。独学でやろうと思っても続かないとか。

柳田：今までの英語の教育だとできなかったと。

平山：でも、本当に不思議ですよ。英語ってみんな日本人だったら学校で習っているはずなのに。

藤永：そう。英語に触れた時間は他の国の時間と比べると遜色ないのですよね。

柳田：そうなんですね。ということは教え方という事ですもんね。

藤永：例えば義務教育というのがあるので、それは他のビデオでも言っていますけれど。それは多いですね。1期生の方でもの凄く多かったのが、外国人の友達を作りたいと。あれ、ちょっと今、こういうハプニングもありますね（笑）。

柳田：ありますね。（笑）。

藤永：あります。だってシールですから。（笑）。

平山：オリジナルワンピース。

柳田：でもこの方のこのニーズ。

藤永：このニーズがもの凄く多かったです。

刈野：これは本当に夢ですよ。

平山：確かに字幕なしで見ると全然やっぱ違いますよね。

柳田：違いますよね。

柳田：そして1期生はかなり見られていますという声。

藤永：あとで感想も見ていただくのですが、確実に伸びたというコメントがあります。夢ではなくなりますと。

柳田：はい。

藤永：自分のものにして欲しいなと、ずっとモヤモヤ感でこのまま先に進んで欲しくないなというのがあります。

柳田：本当に夢ではなくなっている人が沢山いますので。

藤永：このように手を広げて太陽からのエネルギーを（笑）。

柳田：これをハワイでやるのが夢でしたね。これが夢ではなくなります。

柳田：最高に簡単ですか、藤永先生？

藤永：簡単ですよ。ただ流れに沿っていくということが非常に大事なので、もちろんその中で、それでもうまく進まないとか、時間が取れないとか、そういうのがあるというのが現実なんですけど、だからこそ私達がいるというのを常に感じてほしいなと思っています。難しく考えないということです。支えてくれる人間もいるのですよという事をわかって欲しいなというふうに思っています。

柳田：はい。いってみましょう。NS6+のカリキュラム説明をさせていただきますと思います。大丈夫ですか？

藤永：大丈夫ですよ。

刈野：NS6 はネイティブスピーカー6 カ月ということですね。

藤永：はい、そうですね。

柳田：何が言いたかったんですか？（笑）。

藤永：NS の説明ということですよ？ NS というのは **native speaker** で 6 カ月。今回それに+（プラス）が。これはまたのちほど説明しますが、基本は 6 カ月でいきましょうというプログラムです。

柳田：1 期生が嫉妬するくらいプラスされていると。

藤永：そこまでのプラスかどうか（笑）。今回 1 期生の中でも実はこういうことを延長したりとか、いろいろな変更というのをやってきました。その中で面談の時期だったりとか、最後の英会話のところ、これは 6 カ月目になるのですが、そこでもちょっとプラスしていくというのが、1 期生のスピーチコンテストというのをやったのですが、そこでも 2 期生に関してはこういうことをやっていきたいというのは説明しています。

柳田：はい。では全貌公開にいきますけれども、まず一番大事な部分でいうと、ここはブレないですね、先生？ NS6 のミッション。

渕野：英語に対するパラダイムを変え、勉強することなく楽しみながら 6 カ月 + α で英語を話せる新型ネイティブスピーカーを輩出しますと。

藤永：そうですね、ここで一番大切なのが楽しみながらです。これはのちほどサンプルを見ていただくのですが、とにかく毎日続けて欲しいという願いです。そこに尽きるのかなと思います。英語に毎日触れるということが難しいことで、独学において。少しでも楽しみながら、お勉強じゃないのだよというところをわかって欲しいと。1 日目から登場シーンから考えたりしてやっています。

柳田：このミッションは不変なので楽しみながらやっていただくと。そしてビジョンも不変ですね。

渕野：東京オリンピックのある 2020 年までに 5000 人の新型ネイティブスピーカーを養成しますと。

藤永：これは 1 期だけでできるのかということそれは難しい。やはり継続していく。1 期のみなさんで良いお手本がいるのならその方を活かしながら、そこに向かって目標を達成してもらおうとか、いろいろな意味を込めて、ちょっとスピードアップもしないといけないです。今回 2 期生のみなさんにもいろいろとお手伝いしてもらおうところもあるかなと思ってます。

柳田：逆に言うとそういう意識で自分自身も先生というか、教えるというか、マスターしたうえでどんどん教えていくという意識で参加して欲しいですね。

藤永：参加して欲しいです。6 カ月が終わったから私は関係ないよ、NS6 は関係ないよ、ではなくて、そこはチームとしてやっていければなと思っていますので。

平山：NS6 ファミリーですね。

藤永：そうですね。

柳田：いいですね。さっき平山さんがワールドカップの司会をされていました

けれども、オリンピックの司会をね。

藤永：それも含めてなんですが、サポートをしてあげたいなという気持ち、外国人の方が必ず増えるので、やはり日本人の方、今回この動画を見られている方もそうだと思うのですが、海外に行ったら英語が通じなかなかったときは苦しかったこともあると思うのですよ。そこでボランティアで助けてくれる人がいたりとか、それを僕らが英語でできたらなと思っています。

平山：世界が広がりますよね。

藤永：そうですね。僕が知っているネイティブでもいるのですが、二度と日本に来たくないという人がいるのですよね。道を聞いても答えてくれない。他の国の方が行きやすいと言います、困った時も。ここまで経済が発展しているのにそう言われるというのは悲しいことですね。

柳田：確かに。

藤永：もの凄く良い所がいっぱいあるじゃないですか。見てほしい所が。それをただ英語が話せないというだけで、来たくないという外国人がいるというのは悲しいかなと。

柳田：でも今の日本の文部科学省とかの教育に任せていたら、もう無理ですものね。英語ができる人材というのは。

藤永：無理ですね。

平山：確かに海外でも言われることが多いですね。日本はなかなか英語が通じにくい国だね、というふうに言われます。

藤永：それは現実ですね。

柳田：このあいだ 1 期生の修了式がありましたけど、そこで手を挙げてもらったら、みんな協力したいと言っていましたよね。

藤永：そうですね。

柳田：オリンピックの時はみんなでやりたいと。

洸野：本当に自主的に。

藤永：オリンピックで何かやりましょうって、みなさん手を挙げてもらって。

洸野：どんどん夢が広がっていますからね。

藤永：また同じ志の人達が輪を作ると、もの凄い力ですね。それ僕らは予想外でした。

柳田：だって急遽全国に支部ができて。

藤永：Facebook 支部ができました。

洸野：グループができてリアルな場所での、各地方だったりとか志が高い人達の集まりをこれからもやっていきたいという方々が。

平山：まさに 1 期生は日本全国という感じだったのですか？

藤永：北海道、沖縄はもちろんいらっしゃいますし、中にはアメリカ在住の方。

洸野：海外もいらっしゃいました。

藤永：ヨーロッパの方もいらっしゃいますし。僕は 1 期生の方が素晴らしかったなと思うのが、僕の予想外でした。普通もっと selfish、わがままかななどの凄く思ったのですよ。関係ないや、そんなスピーチコンテストなんて私、参加しないとか。ではなくてみなさんがまた集まって交流して、連絡先を交換しているのを見ると、それは僕が思っていた以上でしたね。

柳田：今日も大阪、関西チームに来てもらっていますよね。

藤永：実は来てもらっているんですよ。声だけまず聞かせてもいます。中川さん！

中川：はい。

藤永：柴さん！

柴：はい。

藤永：おお、聞こえますね。のちほど登場していただきます。楽しみに待っていてください。

柳田：そして僕がさっき言いましたけれども、もう一つ特徴的なのが日本の子ども達が英語を話せるようになって欲しいと。これは藤永さんの想いですよね？

藤永：そうですね、僕は息子がいるのですが、英語ができなくて仕事につけないとか、そういうふうな社会は作りたくないという気持ちが強いです。その前に何をやるべきなのかというと、大人がまず話して、大人が話せるんだよというのをわかって欲しいし、私は今までいろいろな勉強をしてきたけれど、出来た、出来なかったじゃなくて、出来るはずないんですから、義務教育でしかやってないわけですから。だからもう一度そこはスイッチを切り替えて、まず自分たちが先頭を切るんだという想いでいて欲しいなと思っています。

平山：確かに、最近子ども達に英語を習わせるママさんも多い。

藤永：多いです。でも自分たちは何もやってないですから。

平山：確かにそうなのですよ。

藤永：結局、何を見るかというと点数をまた気にするんですよ。結局、同じことを繰り返しているんですよ。あれが不思議でならないですけどね。

平山：子ども達って親達が自然にやれていることとか楽しんでやれていることって自動的にやりたくなったりしますものね。

柳田：本当におっしゃる通りですね。

藤永：子どもと一緒にやって欲しいなと思います。

柳田：つまりこれを見ているみなさんがまずできるようになって欲しいと。

藤永：じゃあ、夢なんですよ！ということですね。

刈野：さて、なぜこちら NS6+を立ち上げたのかということですが、まず理由は3つあるのですが、1つ目は先程から出ていますけど日本の英語教育の問題ですね。

藤永：そうですね、自分が英語が出来ないのが自分のせいじゃなくて、もうハッキリと義務教育のせいだったのだというふうに言い切って欲しいなと。それくらい割り切って欲しいと。自分が出来る、出来ないというのを決めたのは義務教育の教育システムであって、それとは全く違う方法でやっていくので、まずはそこでもう1回リセットして欲しいと思います。

柳田：教師が変われば。

藤永：英語が話せると。僕が出来るのは基本的に、もちろんプログラムの提供もそうなのですが、毎日触れて欲しいという気持ちですね。あと一人っきりじゃないのだよと。僕もそうでしたけど、また過去の話になると長々となるのですが、やっぱり一人ぼっちだった、勉強できない、聞く人がいない。

刈野：あれは藤永さん？

藤永：あれは僕です。僕の、いや、僕の、本当？

刈野：私の藤永さん。

藤永：そうですね？ 違いますよね。似ていますね。(笑)。

平山：あんな感じの状況に。

藤永：ナイスチョイスですね。でもこういう状況じゃなかったですか、みなさん。本当に。ああ分かんねえ、単語覚えなきゃ、書かなきゃ。僕、別のところで行ったと思うんですが未だに筆記体書けないですからね。筆記体を書きなさいとか義務教育とか、単語覚えなさい、書きなさいとか。

平山：なんか嫌いになっちゃう。

藤永：そうでしょ？ 9割以上というかもうほとんどじゃないですか？

柳田：それを改革するために NS6+が生まれてきたと。次行きましょう。
英語が出来る日本人の育成が急務だということですね。

藤永：そうですね。先ほど言ったオリンピックというのが直近であるのですが、やっぱりみなさんに楽しんで欲しいかなという気持ちがあります。外国人の観光客はもちろんだんだんだん増えるでしょうし。政府もそういうふうに入力を入れていますよね。観光とかにね。今、結構人気なのが、あんまり詳しく知らないですが、観光の資格とかは人気ですね。

柳田：なるほど。

藤永：人材がいらないのですよ、実は。

柳田：それが NS6 が担っていくということなのですね。そして 3 つ目。理想的な言語習得のプロセスの完成ということですね。

藤永：そうですね。今回は先程も申し上げたように 1 期生の中に海外にお住まいの方、10 年以上お住まいの方が何名かいらっしゃいます。1 名だけじゃなくて。ヨーロッパにもいらっしゃって。じゃあ海外にいるから英語ができるのか、ではないということなのですよ。

どうしてもなあなあ感が出てくるのが一番なのですが、単語単語の繋ぎ合わせだけというのもあるので、しっかりと言語習得の流れに沿ってやって欲しい。海外に住める、つまり留学生は海外に住めるから英語が出来る、それはイコールじゃないのだよということですね。

柳田：すべて大人に適したところなので、これから学ぶのだったら、大人の人が、まずここからスタートして欲しいですよ。その上で海外に行くとか。

藤永：そうです。僕は語学学校に行くことが No とは言っていないのですよ。海外に行くことが No と言っているわけではなくて、しっかり力を付けた上で行

くともっと楽しいですよと。英語を習得するが為に英会話学校、海外というのはイコールにならないですよ、ということを言いたいですね。

柳田：そのプロセスとは、というのはまたこの後説明させていただきます。そして NS6+ の特徴なんですけれども、1 つ目。

藤永：凄い写真が出てきましたけれども。指圧ですみたいな。

柳田：こんな人は今まで英語教育界にいたでしょうかと。

藤永：本当にふざけている。

刈野：まあ楽しくやろうという

藤永：そこなんです。だってここで僕がネクタイ締めて腕組みしていたら嫌でしょ？

平山：嫌だ。難しそうになっちゃいます。

刈野：ちょっと難しそうという。

柳田：そこがみなさん一番喰らいついているところじゃないかなと思うんですけど。こんな人はいなかったと。(笑)。素ですよ？ 藤永さん。これはもうね。

刈野：いつもはそんなに。

柳田：いつもじゃなくても。(笑)。

刈野：常にやっていますよね。

藤永：楽しくってというのが何でもそうじゃないですか。続けられるのって楽しくないと続けられないですし。

平山：確かに。

柳田：いかに良い先生に出会うかということじゃないですか。

藤永：今、僕の子どもがサッカーをやってますけど、出会うコーチによって全然違うわけですよ。萎縮する子、楽しくやる子は全然違うんですよね。それは見ていたらそうなんだと、凄く実感しますね。

平山：先生の存在って重要ですよ。

藤永：だからみなさん本当ラッキーですね（笑）。こうやって言うからダメなのですけどね。

刈野：実際、三日坊主で全然続かなかった人とか今まで何度試してもダメだった人が最後まで続けられる、自分でビックリですと言う人が多いんですよね。やっぱりその楽しさというのが、藤永さんのコーチングだったり持ちあげ方が凄くうまかったんですよね。

藤永：気持ちだけですね、もう本当に。

平山：でも気持ちの部分は本当に大きい。

藤永：そうですね、教材、書籍だと常に一方通行だといっていますけれど、今回、僕が続けられたというのは、1期生のみなさん。熱い思いがあったのでというのは本当に実感しています。僕もだって三日坊主の人間ですよ、基本は。

平山：でも、だからこそ三日坊主の気持ちがわかる。

藤永：そうです。もうつまらないとやりたくないし。

柳田：本当に工夫していますよね。飽きさせない工夫をしていますし。

藤永：緊急に迫られて勉強しなきゃいけないといって勉強する人がほとんどだと思うのですよ。じゃない人でも続けられるという環境作りをしたいと、もの凄く思ったのですよ。今必要ではたぶんないのだろうけれど、でもしゃべれたらやっぱり楽しいよねと、いう人達へもわかって欲しいなと。

柳田：そうです。このチャンスを逃すとなかなか、あまり言えないですけど、

このチャンスを逃して欲しくないですね。今せっかく盛り上がっていると思うので。やろうという気になっていると思うので。そして次ですね。25分完結型のカリキュラムと。

藤永：これがね、1期生のみなさんで声があったのが、25分って短い、勉強の感覚からきていますから。実際やると25分の集中力はちょうどいいのですよ。それ以上やっちゃうともたない。

ほとんどの方が最初は2〜3時間同じプログラムをワーっという方もいらっしやったのですが、もちろんプログラムが進行して、それくらいがちょうどいい集中力。僕もそうです、30分以上は続かないですね、集中力が。じゃあ長くやればいいのか、じゃないですよ。受験勉強の英語と一緒に。自己満足だけなので、自分はやったんだという自己満足で。

刈野：それを見るだけでも聞くだけでも、やりやすいようにしたものが毎日トレーニングできるという状態までできていますね。

柳田：これを後ほど見ていただきましょう。
そして、英語ができるまでフルサポートと。

藤永：そうですね。ここがね。

柳田：今、思い出しましたか？ 6カ月間。

藤永：いや、思い出して6カ月を、もちろん継続的にはそうなのですが、風邪を何回引いたか。ね、中川さん、柴さんね。

平山：寝る間も惜しんで。

藤永：寝れなかったですね。

刈野：本当に心配の声もたくさん、労いの声とかね

藤永：そうですね、本当にいただきました。ショウガが良いですよとかね(笑)。

柳田：みんな優しいですよ。

藤永：優しいですね。

平山：そこまでやってくれる先生はなかなか。

藤永：一人ぼっちじゃないということを言葉だけじゃなくて実際サポートという形でやりたかったの。僕は思うんですよ、気持ちがわかるのがほとんどの方が英語は落ちこぼれてきている方がほとんどだと思うのですよ。誰も手を差し伸べなかったと思うのですね。

僕が代わりに出来るのであれば、24 時間べったり物理的に寄り添うということは難しいのですけれど、困ったことがあれば必ずそこにいるのだよという存在。6 カ月普通終わったら大体サービスは終わるじゃないですか。それは絶対したくない。今回の 1 期生もそうですけれど、継続してサポートしていくという形でいますので。

平山：先生、実際朝型の生徒さんとか夜型の方とかいろいろ。一日中沢山みなさんから。

藤永：そうです。一日中ピロンピロンです。メールが入る度に（笑）。一通書き終わったらまた来たみたい。

渕野：すぐレスしてやっていましたよね。

藤永：メールだけのサポートではなくて、のちほどあるのですけれど、音声のチェックだったりとか。

渕野：丁度トレーニングの悩みがある、ベストタイミングで藤永さんのサポートがある、悩み解決動画が届くような感じですよ。

藤永：事務局の方がみんなの声をまとめたので、みなさんと共有していきましよう。まずタイムリー、できるだけタイムリーに対応しようということで動いていただきましたね。これは僕だけじゃないですね。

柳田：本当にしんみりしていますけど、これを 1 期と同じように 2 期でもやるということですよ。

藤永：そうです。

平山：また沢山ショウガを食べないと。

柳田：今度は風邪を引かないようにしてください。

藤永：睡眠を取らないとダメですね、みなさん。

柳田：今回さらに、先生だけでなくサポートスタッフも含めて増強してますので、のちほどご紹介いただければと思います。のちほどばかり言っていますけれど。

藤永：本当にそうですよ（笑）。最後まで見てください。最後まで見た方が良いです。

柳田：関西チーム気になるでしょ？ もうすぐ出てきます。
これが特徴だと。

藤永：これです。これが 1 期生のスピーチコンテスト。最後ですね。コンテストに集まっていたいて、大阪チームじゃないですけど、来ていただいたりとか、あとは北海道、九州ですね。

渕野：これ、本当に楽しかったですしね。

藤永：めちゃめちゃ楽しかったですよ。もう終わったのという感じだったので。

平山：その雰囲気伝わってきますね。

藤永：僕たぶん、顔が真っ赤っかなんですよ（笑）。疲れている時にアルコールはダメですね。

平山：これは女性の方も男性の方も半々くらいですね。

柳田：そうですね。この時そういえば緑 T シャツでしたね、僕ら。

藤永：そうです、緑 T シャツです。

平山：真ん中の緑が。

藤永：それ僕です。

柳田：楽しかったですよね。結果として、このような 1 期生からの声が沢山来ているのですけれども、瀏野さん、どのくらいの数がここに来たんですか？

瀏野：半年に、大体 3000 件から 4000、5000 件くらいまでいきますね。毎日 20 件、30 件、多い時は来たりしますので。

柳田：もの凄い数が来ていますね。

瀏野：そこを一人一人対応して、しかも事務的な対応じゃなくて、丁寧にその方々の気持ちを考えた上での回答をするということを、事務局の方も心掛けてやっていました。

平山：一人一人じゃないですね。ついていきますね、先生が。

藤永：またこれを見たら感動してくるんですよ。本当にこのままコピペでポンと紹介させていただいた。

平山：みなさんからのコメントが。

柳田：改編していないとかね。直接そのまま貼っていましたもんね

藤永：直接そのまま。

柳田：コピペで回答しているわけではないですよ？

藤永：コピペで回答できないでしょ（笑）。

平山：それはダメです。

柳田：来たやつを貼って。本当に沢山、この後、のちほどまた。

藤永：またのちほどですか（笑）。

柳田：コメントものちほど（笑）。紹介しますけども。

藤永：どれだけのちほどなんですか！（笑）。

渕野：全部は載せきれないのですけれどね。

柳田：生の声ですよ。まだあります。

藤永：ちょっと一時停止してもらってずっとこれを読んでもらっても構わないですし。全部はご紹介できないし。

柳田：また **WEB** サイトでもご紹介しようと思いますけれども。

平山：勉強はほとんどしていませんよね。

渕野：一番下の方とか。

柳田：という藤永さんが考案したステップというのがまずは耳からという、これかなりキーワードですよ。

藤永：これは絶対ですね。だから、どうしても聞いて理解しなければいけないのが、たぶん皆さんの頭の中にあると思うのですが、基本的にまず理解をせずに英語の特徴、音の特徴というのを、**SVO** だったり違う動画で説明したのですが、語順感覚だったりとか、そういう意味でも最初、音、ヘルツ数も違います。英語と日本語が。全く違うのでまずここで慣れるんだと、どこを聞くんだと。聞き流しではないという事ですね。そこをしっかりとやっていくというのが大事だと。

みなさん意味を理解しないで聞くという感覚がほとんどなかったと思うのですね。それで焦られるのです。聞いたことがない単語が出てきたと。辞書で調べなきゃ、いや、赤ちゃんは調べないでしょと、まずとにかくそこをリラックスさせることが大事なんだと 1 期生を通して思いました。

渕野：最初は勉強という感覚のとれない方々もいらっしゃいますよね。

藤永：いっぱいいらっしゃいました。

渕野：そこちゃんと何度もサポート動画の中で勉強じゃないですよ、という事をどんどん言って。

藤永：1期生の時は実は毎月テストをしますというテスト形式を考えていたのですが、実はそれも1カ月目で即廃止しました。勉強になってしまうから。そこで点数がまた悪かったら、私落ちこぼれと思うんじゃないかと。それを凄く危惧したので。最初テストをやるつもりだったのですが、それも全部廃止して、とにかく楽しく続けようということですね。

柳田：ここまで説明してきましたけれども、これがすべてが組み合わさった最強ステップというのがNS6+だということですね。じゃあここからは具体的な6カ月+αのカリキュラムというのを渕野さんを中心に説明してもらいますけれども、ここでサポートスタッフを呼びながら、ワイワイ、ガヤガヤ楽しくお伝えしていければと思います。まだチャンネルはそのままいきましょう。

—— 事務局の方が到着 ——

全員：あれー？

藤永：事務局の方ですね。

渕野：事務局と全員でサポートしながらという形なので。これでカリキュラムをご紹介します。

柳田：もの凄くむさくるしくなってきたですね。

藤永：もうギュウギュウ感満載ですよ（笑）。

柳田：どうしてもハワイに行きたいと、2人も。

鶴岡：そうなんです。来ちゃいました。

小森：来ちゃいました、すみません（笑）。

柳田：自己紹介してもらいましょうか。

鶴岡：事務局の鶴岡と申します。よろしくお願いします。

小森：同じく事務局の小森と申します。よろしくお願いいたします。

渕野：小森さんへの熱いメッセージも多かったですね。

藤永：多いですよ。僕やきもち妬きますよ。

柳田：よく妬きますよね、本当に（笑）。

藤永：めちゃめちゃ妬きますよ、平山さんが登場しても、たぶんみなさんこっちばかり見ているでしょ？ 妬きますよ。

柳田：でも本当にサポートが素晴らしくて。

藤永：助かりますね。僕一人だけではどうしてもこなせない時とか、みなさん1期生の立場に立った返信だったりサポートだったり、それも女性ならではのきめ細やかな対応を。

渕野：やりとりする中でどんどんモチベーションも高まっていききましたよね。

藤永：そうですね。NS6 の意思をしっかりとわかっていただいて、それでやっていたいただいているので。

柳田：ちゃんと胸には？

藤永：NS6

柳田：やっぱりつけていますからね。

渕野：じゃあさっそくいきましょうか。

渕野：まずはこの大枠ですね。3つのステップ+αで進んでいきます。ステップ

1 が聞くと。まず聞く力をつけて次は話す力をつけると。ステップ 3 の最後に使う力を付けていくという形ですね。その間に一人一人のサポートと藤永さんのコーチングが入りつつ、間にも直接面談までおこなっていくというカリキュラムですね。

これが NS6+ のロードマップになります。基本的には 1 日 25 分完結型のオートステップ形式です。

柳田：これが何カ月か、6 カ月～10 カ月かの積み上げのステップという感じですかね？

渕野：そうですね。まずは month0 ということで、スタート準備もしっかりやらせていただきます。

藤永：今回 1 期生をさせていただいて、1 つ言うと FAQ の準備だったりとか、よくある質問があるのですよね。その準備だったり、これは 1 期生に向けて、もう 1 つサポートの 1 つでもあるのですが、迷ったときにはすぐに回答がわかれば、これの積み重ねでいつでもクエスチョンがあった場合に、もちろん僕のサポートもあるのですが、それとはまた別ですぐに知りたいなといった時には、同じような悩みの方が沢山いらっしゃるので、凄く参考になると思います。それは実はもう準備に入っていますね。

渕野：そうですね。こちらでのトレーニング動画のものも配信したりとか進められますので。

柳田：2015 年の 6 月から本編スタートで、month0 はもう少し前から準備していくという感じですね。

渕野：month1 にこれから入っていくわけなんですけれども、その中で各トレーニング前に、キックオフメッセージの動画を見て、高いモチベーションでスタートすると。

平山：相当テンションが高いですね。(笑)。

柳田：これ見れますかね？ 右下の辺りとかも凄いですね。

平山：確かに取り掛かる時が一番ハードルが高いじゃないですか。

藤永：そう。始めようと思った時にね。

平山：そういう時にこのド頭にこれだと何か。

柳田：今日の藤永さんどんなだろう。

藤永：今日の登場シーン何なんだろうと。

渕野：でも実際 **month1** とか 1 週間くらいトレーニング動画を配信する中で、先にこれだけ全部見ましたという。

藤永：そうそう。(笑)。

柳田：これだけ売ってくださいとか。でも、あのオープニングの **BGM** とこのオープニングのいろいろなシーンというのは、いろいろ来るわけですね、欲しいとか？

藤永：来ます。

渕野：この音楽もネットで探したんですけれどないんですよ。

藤永：事務局にも結構ありましたものね。

柳田：売ろうとしていましたよね、渕野さん。

渕野：ちゃんともらえます。

平山：ちゃんと毎日違うオープニングがある。

藤永：そうですね、それとキックオフ、プログラムが始まる切り替わる時に、私からまた個別のメッセージ。毎週ですね、いちおう私からのメッセージを配信して他の人はこうですよ、こう悩んでいますよとか。事務局のメールと一緒に私の動画も、凄いプライベートがあると思うんですけど、家の前とか(笑)。いろいろな場所でも撮りました。車の中でも撮ったりとか。雪の中でも撮った

りとか。

柳田：息子に撮らせたとか。

藤永：息子に持っていてもらって撮影してもらって、わざわざみなさんに見て欲しかったんですけど、かまくらを作ったんですよ。雪のかまくらを作って。何もない雪だったら適当にやっている感があるじゃないですか。ではなくてみなさんにかまくらを見て欲しいなと思って。3日かけましたね、ずっと本当に。

柳田：どこにもいない、こんな先生。

平山：本当ですね。

藤永：でもあるんですよ。毎週メッセージが出るじゃないですか。今週疲れていますねとか、来ます。心配の声もね。少しでも元気を出したいと思うんですけど、逆に心配させたなと思うのも僕の反省点かなと思うんですけど。それくらいみなさんと一緒にできたというのがありますね。

渕野：こうやってどんどん各トレーニングを続けられるという。

柳田：勉強じゃないということですよね。

渕野：楽しんでいこうという。では month1 ですね。まずはステップ 1 の聞く力をつけていくという事で、ここでは英語の発音とか意識的ヒアリングという形で、この辺のテーマにしたものですね。

藤永：1 カ月目から始めるんですけど、最後のターゲットはもちろん話すことであって、この時点でもうすでに発音トレーニングというのを日本人が不得意な音ですね。これを 21 日か 31 日の聞き分けトレーニングというのもあるのですが、R の発音だったり TH の発音だったり、聞き分けもそうなのですが、発音することも難しい、日本人にとっては、というのをこの時点からスタートしましょうよと。1 日 10 秒程度でできるトレーニングなので、それがいきなり 5 カ月目、6 カ月目でいきなり TH の発音をしてくださいと言っても難しいと思うので、この時点からスタートしてもらおうということです。

渕野：あとは、会話の前半に脳のパラメーターをどんどん持っていくという。

意識を頭に持っていくということをここでやっていきます。

藤永：そうですね。誰でも、できる簡単なトレーニング。

洵野：実際のトレーニングはこういった形ですね。

藤永：1 期生を募集する時はこういうのはなかったですからね。

柳田：リアルタイムですね。

藤永：リアルタイムで動いていたので、今回すべてある形で 1 期生がされたものというのを、包み隠さずこんな感じでやっていたと。

洵野：実際に。

藤永：実際にでは見てみましょうか。そう、こんな感じです。

洵野：毎回登場シーンが違いますからね。

藤永：今回の登場シーンは何でしょう。撮りました、撮りました（笑）。

洵野：この週はパリからという事ですね。

藤永：そう、場所も変えてね。

柳田：これは平山さん。

洵野：こういった形で。

「平山：～最初の 3 語は何でしょう。～」

藤永：意味を考えずに聞き取るという事ですね。

洵野：このトレーニングで感想も凄かったですよね。聞き取れるようになったという。

藤永：そうですね。その最初に意識を置くということがまずなかったと。英文の後ろの方に意識が行ってしまうという癖を、前に持ってくるということですね。

潤野：3語の後は、次は5語で持久力を。

藤永：持久力を伸ばすということですね。これは毎回、登場シーンがあるので。1つ1つ見てみましょう。

「平山：～最初の5語はなんでしょう？～」

潤野：形ですかね？

柳田：話がかぶっちゃってみんな聞いてたか... (笑)。

藤永：3語の次は5語です。(笑) はい、こんな感じです。

潤野：あとは聞き分けだと。

藤永：そうですね。

藤永：これ全部、平山さんがね？

潤野：そうですね。

藤永：平山さんの声で癒されたという人もいっぱいいますよね。僕もこんな声じゃないと続けられないでしょうから。

潤野：音の聞き分けも、こういった最後に違いがどんどんわかっていく仕掛けがありますので。毎回確認することで違いがどんどんわかるようになるということにつながります。

藤永：これも連続して音を言うというのも、これも途中で変えたのですよね？

潤野：そうですね。

藤永：同じ音を lamp と言って、L でしたと言ってそれで終わりじゃなくて、もう 1 回それを 3 回連続くらい聞かせることで、もう 1 回植え付けようというのも途中で変更したものです。

刈野：こういったトレーニングでやっていきますね。実際の声も。

柳田：これがね。

藤永：これは本当にそのままですものね。

平山：ゲーム感覚。

藤永：そう言いながらみなさん最初は正解率が何%とか、最初の勉強の癖が抜けないのですよ。だから先程言ったテストはやめたのです。とにかく楽しんでほしい。聞くだけで良いんだよと。ただ聞き流すのではなくてどこに意識を置くかということですね。

藤永：そうですね。

刈野：そうですね。こういった感想も。「音が拾えるようになってきました」

藤永：そうですね。意味を理解するんじゃない。音を聞くのだってこと。“だけ”でいいんですよと。

柳田：もう 1 カ月目から藤永式の効果は凄いです。

平山：皆さん楽しいというコメントばかりですね。

柳田：本当ですね。

刈野：多いですね。

柳田：NS6 は本物です！

全員：(爆笑)

柳田：田中さんがキメた！　みたいなの。本物です（笑）。

藤永：あ、田中さん。福岡の方ですね。覚えています、覚えています、はい。

平山：潜在意識が働きだした。これこそまさに英語脳。

渕野：そうですね。month1 でも変化が現れてくるということですね。

藤永：この時ちょうど、思い返すと、面談しながらだったのですよね。体力的にも結構辛い時にこういうメッセージもらったりとかしたので、僕が励まされたって感じですね。嬉しかったです。

渕野：次は month2 ですね。ここで「聞く」の次のステップ、リスニング力を覚醒していくと。ここが大反響だった数当て、入りますね。

藤永：そうですね。要するにすべての音を掴むという。これは別の動画で説明した通りなのですが。最初の 3 語だけでもダメ、5 語だけでもない。やっぱり最後まで聞くのだという。ただ、そうになってしまうとやっぱり意味を考えてしまうじゃないですか、最後まで聞くと。じゃなくて、「うん、うん、うん」という形で、数を数えるだけでいいのですよと。もう 1 回頭の中で復唱させる感じですね。これが要するに、ヘルス数が違ったりとかするというのも、すべてここで克服していくので。

渕野：いちおう、ここでうまくいかない人向けにも、こういったフォロー動画を継続的に配信したりといったことをおこなったり。

藤永：そうですね。やっていましたね。

柳田：受講生の発音も、藤永さんが 1 人ずつ添削すると。

藤永：そうです。動画で送られてきたりとか。凄く重い動画（笑）。何メガバイトあるんだろう、とか。

渕野：一人一人送ってもらったものをチェックしますので。

藤永：他のメールが受信できないのですよ。

全員：(笑)

藤永：最初それが詰まっちゃって。ここのメール、ずっと詰まっているのですよ。

洸野：凄いのが来た。発音の音声。凄かったですよね。

藤永：ああ、もうビックリ。僕が、サポートというか、面談の時も、それも 1 カ月後ぐらいだったのですけれど、その音声を聞いていたのですよ、面談の合間、合間に。サポートしないと、やっぱり追いつけないですから。

平山：そうですね。

藤永：やっている時に音声を流したら、「えっ！ 何ですか、今の」って、たまたま洸野さんが通りかかって。もの凄くキレイになっていましたものね。

洸野：「これ、教科書の音声ですか？」って聞きましたよね。

藤永：そうそう。それくらい。もう 1 カ月で体感された方がいらっしゃいます、中には。もちろんそれは個人差があるので。そこで僕は完璧を求めているの。ただ、そういう方もいたということです。

柳田：これ、できなくてもというか、どんどん積極的に送ったほうがいいですよ？ やってくれるから。

藤永：全然送ってください、それは。

柳田：遠慮したら損ですものね。

藤永：損です。

洸野：しかも、発音に関しては 1 日 10 秒とか、そういうレベルで。

藤永：そうです。

渕野：最初のトレーニングを頭に置いているだけです。自然に発音がキレイになっていくという。

藤永：そうですね。

渕野：ここのトレーニングですね。数当てのほうですね。31～50 日目ですね。2 週にわたって数当て。このような形でやっていきますね。

藤永：数当ても、そうだ、だから 1 期生の時にこれも変えたのですよ、たぶん。1 週間だったのを 2 週間に延ばしましたね。

渕野：そうですね。

藤永：好評だということで。ただね、事務局の方に僕、もの凄く迷惑をかけているのですよ。コンテンツ作成から。いやもう本当、迷惑かけています。

全員：(笑)

藤永：要するに、受講生の声をそのまま反映させようと思って。普通だったらそのままプログラムを、はい、遂行して、できた、できないか、じゃないけど、いろいろな声があがってきていたので。楽しいとか。じゃあ、これをもっと続けたほうがいいだろうと。そうですね、もの凄く迷惑をかけました。

渕野：急きょ追加制作にという。

藤永：そう、追加制作です。本当に。

渕野：その後、ディクテーションですよ。

藤永：そうですね。

渕野：じゃあ、これの実際のトレーニングを見てみましょうか。

藤永：という感じ。

刈野：そうですね。スペルというか、気にせずに、数だけ。

藤永：そうです。数だけを聞くのですね。

柳田：でも、本当に手が込んでいますよね。細かく。

藤永：そうですよ。今のトレーニングをする前に、実は音と音が繋がるリンキングというのが実は英語にはあるのですが、そのためのまた前準備として教材をお渡ししているのですね。「ネイティブ・ラッシュ」というやつを。

刈野：そうですね。これは藤永さんマンツーマン感覚での講義レッスンになっているので、これもかなりキャッチボールっぽく動画ができています。

藤永：すごく僕が真面目なバージョンなのですよ。

全員：(笑)

藤永：ぜひその教材を見てください。凄く真面目なので。

平山：ギャップが。

藤永：ギャップが。

刈野：そういう実際の month2 の声とかも来ていますね。

柳田：これもう、未知の体験です。聞けるようになりました。自分の生活で一番楽しい時間です。

平山：もの凄いですね。

刈野：これは嬉しいです。

藤永：でもね、こういうコメントとかをもらうと、本当に嬉しかったのを覚えていますね。

刈野：そうですね。どんどん感想が来ていますもの。この途中の段階で。

藤永：やっぱり常に僕が気になったのが、みんなついてきてもらっているかなとか。ギブアップする人をやっぱり作りたくなかったの。あ、柴さん、ありがとうございます！

全員：何やら、凄い変化が起きた気がする。

藤永：いやいや、その変化を後で見てもらうので。素晴らしいです。

刈野：藤永ワールド、凄いです。

藤永：これね、本当に一部ですから。

全員：うん。

柳田：事務局はどうですか？ お二人もこれを見ていて。バーって。

藤永：そうですね。

柳田：嬉しいメールが。

小森：皆さま、要所、要所で感想を送っていただけるので、やはり一方通行ではなくて、そういうお声を拾えるのが。嬉しいお声がたくさんだったので。ありがたいなと思って読ませていただきました。

平山：この段階って皆さんちょっと、不思議とか、劇的な変化とか。

藤永：そうですね。具体的にはないのですよね、まだね。

平山：ねえ。なんかそういう感じのコメントですよ。

藤永：いやでもね、その感覚が凄く大事かなと思って。

平山：英語を学んでいてその体験って、ちょっとなんか不思議な感じのコメントですよ。それこそまさに新しいプログラムということですよ。

藤永：だから、そこが義務教育で教えられないところなので、それを感じてほしいなと思っています。

渕野：次ですね。

藤永：おっ！　ここでいきなり登場しましたよ。

全員：(笑)

渕野：何ですかね。

藤永：何ですかね、これ。

平山：ビックリしています。

柳田：どうぞ。

渕野：はい。面談ですね。

藤永：あ、そうだ。

柳田：それでこうなのですね。

全員：(笑)

藤永：ここがですね、1期生の皆さんと変わったところで、month0のところで、基本、1期生の皆さんは、スタートする前とスタートしてからという、その1カ月目。最初の3単語だったりとかをやっている時に、面談を実はやったのですね。これからの意気込みとかというのを。ただ、今回やっぱり感じたのが、インプット。これからは実はアウトプットに徐々に移行していくのですが、その移行でちょっと時間がかかったりとか、スムーズにいかなかったという声が、たしかにあったのですね。ここで面談ができていれば、1期生の皆さん、もうちょっとスムーズにできたんじゃないかという僕の思いがありました。これ、この前のスピーチコンテストの1期生の皆さんの時にも言ったのですが、たぶんここは変える。でも、これは1期生の皆さんを通して感じたことで、1期生の皆さんには感謝したいということで。たぶんそこで僕がもっとサポートできて

いたら、声をかけられていたら、という思いがあったので。このように、2 期生からちょっと変えさせていただきました。

洵野：聞く力がついた後の、次の話す力をつけるブレイクスルーを起こすポイントで、ここにセッティングしていますね。

藤永：そうです。

洵野：いよいよステップ 2 で話す力をつけていくということで、ここも鵜沢式ですね。

柳田：うん、来ました。

藤永：そうですね。鵜沢先生から、そういった語順感覚を身につけていく。英文法とはなんぞやと。簡単に言えば、語順感覚が一番大事な、SVO、SOV の違いですね。

洵野：これも、見るだけ、聞くだけ、もしくはブツブツ動画が流れてくるものを言っていくだけで成立するような形で話せます。

藤永：これも当初、たぶんね、10 日だけだったと思いますよ、1 期生の時は。

洵野：そうですね。

藤永：これもだから連続にしました。おもしろいという声があったので。

柳田：どんどんプラスされていますね（笑）。

藤永：プラスしています！ 今回プラスなのですけど、実は 1 期生でもプラスって結構やっているのですよ。

洵野：かなりありますよね。

柳田：後ろ、横にいますからね。1 期生の視線が（笑）。

藤永：あります。

柳田：要プラスですね。

藤永：でもね、そこは自信を持って言えます。独りよがりじゃなくて、皆さんの意見を聞いて、変えていったという自信はありますね。

渕野：実際、これも移動中にトレーニングをスムーズにしたいという方の要望の中でも、特にもう 1 回復習で何回も聞きたい人は、「要るところだけほしい」みたいに言われて。

渕野：そうすると、トレーニングの一番ポイントだけをカット編集してやって、その場でどんどん配信したりとかですね。もうリアルタイムでカスタマイズして。

平山：一方通行じゃないということですよね。つまり、2 期生の皆さんが、何かこうしてほしいとかいう要望があったら、どんどん。

藤永：そうですね。

柳田：もっとプラス（笑）。

藤永：藤永登場いない、みたいな。

全員：（笑）

藤永：そこ、マイナスになります。

全員：（笑）

渕野：はい。そのような、トレーニングはこういう形で進んでいきますね。

柳田：そうですね。

渕野：足し算方式で。実際に足し算方式をわかりやすく、藤永さんのほうで足し算の解説動画が入っていたりしますので、じゃあやってみましょう、という形でトレーニングを進めていきますね。これも PDF で最後、復習できたりとか、

ガイド付きの音声を付けたりとかですね。

藤永：そうですね。これも本当、プラスですね。当初まったく予定していなかったです。

洸野：これで終わった後の復習、スマホでこうやるだけなので、どんどん進めやすいですね。実際のトレーニング動画ですね。

藤永：はい

「平山：藤永式フラッシュバック・トレーニング」

洸野：あとは、フラッシュバックですね。

藤永：そうですね。これは英単語をイメージ化して落としこんでいくということですね。

洸野：いろいろな状況の中で。

藤永：これ、私ですね。写真ね。顔だけを変えています。

全員：(笑)

藤永：こういうのもやっているのですよ、だから。顔だけを変えたりとか。

洸野：普通の外人さんの写真だとちょっとおもしろくないですよ。

柳田：そうですね。

藤永：おもしろくないので。しつこいくらい僕が出てくる。

柳田：どんだけ出てくるのですかと。

藤永：そうです、そうです。

平山：これなら続けられる (笑)。

渕野：しかも、たまにトレーニングをやっていて、邪魔しにくる藤永さんも出てきたり。

全員：(笑)

平山：凝っていますね。

藤永：だってね、東京ドームとかあいうところに行ってもね。

「男性：お疲れ様です！」

藤永：おお、来ました。

「男性：イエーイ！ 本当にお疲れ様です（歓声）。これからどんどん上達していきます。3 カ月目お疲れさまでした」

藤永：うわ、恥ずかしい。

全員：(笑)

藤永：これも朝撮りましたね。

柳田：画質が悪い。

「(音楽)」

鶴岡：毎日藤永さんからのメッセージも届く、みたいな。

藤永：そうです、そうです。

柳田：いやあ、とにかくエンターテイメントですね。

藤永：楽しく、楽しく、ですね。

渕野：はい。それをしていただいた皆さんからは、また。

柳田：ドスンと。

渕野：ドスンと来ていますよ。

藤永：そうですね。まだ month3 なのですね。

渕野：スウェーデン語と英語の相乗効果を期待していましたが、まさにその通りになりましたと。

平山：え、そういうことなのでしょうか。

藤永：ヨーロッパに行かれていた方で、スウェーデン語も勉強したいというので行かれたのですけれど、やっぱり英語も習得したいということで。スウェーデン語がなかなか身に付かなかったらしいのです。でも、これをやって、なんか感覚が。最初、聞くとかではないですけども、音の感覚というのがわかったとか。そういうことを聞きました。

渕野：両立しながらやられていましたらかね。

藤永：そうですね。平山さんナレーションよかったです。

柳田：平山さん、ナレーションも素晴らしいですと。

平山：こんなことでしか皆さんのお手伝いできないので。

柳田：その下もなんか。悩みに対してすぐに返信いただきまして、動画でのメッセージも取り上げていただきまして、本当に一人ではないんだと。

藤永：そうですね。一人ではないというのは、もう僕は常に言い聞かせているというか、一番伝えたいメッセージなので。一人ぼっちではないのですよと。

渕野：また平山さん（笑）。

柳田：ちょっと嫉妬しますよ。

藤永：本当、嫉妬しますよ。いや、僕、その下、ニヤニヤしてますというのがあって。平山さんかなと思ったら僕だったので（笑）。よかったとか思って。

平山：いろいろな所に出現している先生。

柳田：半分、恋されているんじゃない？ この生徒さんも。

藤永：いや、恋してください。

柳田：本当、藤永さんにほれるからこそ、うまくなるってありますからね。

藤永：カッコいいですからね。

刈野：いやいや（笑）。

柳田：そうですね。バツができました（笑）。

藤永：本心。

刈野：いつも三日坊主の私が毎日続けるという。

藤永：これ大事なのですよ。けっこう多かったのが、こんな私でも僕でも、毎日、英語に触れているということ、奇跡ですというのがやっぱりありました。

柳田：そうですね。一点困ったことは、平山さんの声と話し方、とても素敵で、平山さんのように日本語もちろん英語もしゃべれたらいいだろうと、聞き入ってしまうことです（笑）。

藤永：平山さんに恋していますよね（笑）。

柳田：また。

藤永：恋してください。平山さんに恋してください。

刈野：藤永さんも楽しませようとサービス精神旺盛でっていう。

藤永：前座みたいな感じ（笑）。それでいいのですよ、でも。僕は主役ではないので。僕は本当、主役ではないです。主役は皆さんなので、サポートできればと思っています。

洸野：感激です。いつもですが。

柳田：本当、嬉しいです。

藤永：嬉しいです。

洸野：次が month4 です。

藤永：きました、やっぱ。

洸野：ここでついにソーシャルライフスピーキング。ここでしかやっていないものですよね。

藤永：ここでしかやっていないですね。自分で日記を書きなさいとかという書籍って、けっこう出ているのですが、じゃ、誰が添削するのとなると思うのですね。ここは本当リアルタイムで。基本、リアルタイムで対応していこうというところから始めて、これも一人ぼっちではないのだよと。これ、でも詳しい内容にいくとわかるのですが、写真が 2 つ毎日出てきます。

洸野：毎日 2 つの写真に対して英作文。

藤永：英作文を作るということですね。これが事実だったりとか、想像でもいいです。英文をまず書いてみるということで、ほぼリアルタイムで講師たちが添削するのですが、これも実はおもしろいという声もあったというのと、当初、1 カ月だけだったのです、実は、プログラムは。これを 3 カ月にのばしました。これは実際の英会話と並行する形で。これも急遽、変更した形ですね。あと、これだけではなくて、また次いけば、わかります。

洸野：ここも複数、何度でも投稿できます。

藤永：一人何回でも投稿できます。ここで一番下にあるのが、音声も付けると

ということです。これも急遽。

柳田：凄いですよね。

藤永：これもプラスしました。だから、今、プラス何回言いました（笑）。

刈野：なのでネイティブ講師が自分の作った英語を正しくしたうえで、さらに音声に入れ込んで。

藤永：そうですね。NS6 のスタートは耳からということで、またここで読ませるだけだと、お勉強になるのではないかなという危惧があったので。ここで音声もプラスして、いつでも聞けるように。あと一番良いのは、他の生徒さんの添削も見れるということです。自分だけではなくて。

柳田：さっきも言っていました。1000 以上の投稿。

刈野：ここですね。

柳田：1018 件のフィードバックですからね。

刈野：1 つの写真で。

藤永：1 つの写真ですよ。

柳田：凄いですね。

藤永：一人 10、20 でもいいのです。投稿してどんどん使ってもらってかまわないということです。

刈野：投稿したものをすぐ添削返ってきますので。

藤永：そうです。

柳田：つまりフィリピンチームがリアルタイムで動いているということですね。添削チームがね。

藤永：そうですね、これが 1 つあるのが、他の投稿でもの凄くいい英文があったとするじゃないですか。そういったときに、それをまとめて 10 日に 1 回でしたね。10 日に 1 回配信という形をとっています。だから、実際の PDF の内容を見てもらいたいと思うのですが。

刈野：実際のサイトを見てみましょうか。

藤永：そうですね。実際にそのサイトを見て。

刈野：実際のトレーニングですね。こういった WEB ページの中で毎日 2 問、写真が出てきます。

藤永：こんな感じですね。写真が出てきて、そこで。これ、見てください (笑)。またここで。どんだけ僕の著作権、使って。

柳田：顔の大きさがかなり違いますけれども (笑)。

藤永：それもいちおう狙いなのですよ。

刈野：そうです。

藤永：いちおうそこで、それも狙いです。

刈野：違和感をちょっと。

藤永：違和感を出して。

刈野：この写真に対する英作文をみんなで。

藤永：お願いしますね。こういうのも気づいてくださいね、皆さん。

刈野：登録していくと、こういう感じですね。登録した文章を矢印で正しい文章にネイティブが直して、そのオーディオプレイというもので音が流れるという感じ。

柳田：全部、しかも他の人も見れるという。

藤永：これがまたいいのですね。これ、ずっと下にいってもらくと、凄い数でしょう。見てください。ありました。ここで実際、PDFの中。これが要するに、他のいい投稿ですね。例文になるのじゃないかっていう投稿。完璧じゃなくてもいいのです、皆さん。完璧に書かなくてもいいのですが、その中でちょっと。

渕野：さっきの。

藤永：ここにもまだ。細かなところですね。僕、実は、細かな英語の文法って説明、あまりできないのです。感覚で覚えていった。鵜沢式。語順感覚の中でいろいろな英文に触れていったというのが、一番大きいので。そこでも細かな、ここを絶対に見なさいというものではないのですが、一つ気になったのは、ここでは冠詞はこうやって使うのだとか。そういうのも、ここで確認してもらえればなと思います。全て生徒さんが投稿されて、生の、作ったわけではないですから。

渕野：まとめたものになりますね。

藤永：まとめたものですから。全て音声も聞けるということです。これも別途つけた、プラスです。

渕野：全部ありますから。

藤永：そうです。これは10日にまとめて。大変だったと思います。これはもう4カ月目ですね。4カ月の声ですかね。

渕野：次が5カ月目。

藤永：声ですね。

渕野：声です。

藤永：続けていることにビックリ。

渕野：けっこう自分にビックリしている人が多いです。

藤永：そうなんです。それあります。たぶん、動画をご覧の皆さんもそうだと思いますけれども、私にできるかなとかいうのがあると思うのですけれども。ビックリしてほしいなと思います。知らない自分がいます。

渕野：解き放たれた感じがします。

平山：ようやくこのときが来たかという。

藤永：本当に一部ですもの、もっとあった。

柳田：これだけのフォローを受けたレッスンは今までにありません。凄いです。

渕野：自然と英語で文章を作っている自分に出会いました。

藤永：結局、ここでの文章がうまく、もちろん作れたり作れなかったりという方がいる。作れなかった方のために、もちろん僕らいるので、またサポートをして、それに載せていく、順調な軌道に修正していくということをやっている。本当に一人ではないので。

柳田：こういう英文を作りたいのですけれど、と相談を受けながら？

藤永：あります、それはね。

柳田：これ、サリーさんのネイティブはこういうのだというのがわかって勉強になりました？ これ、非常に大事ですよ。

藤永：大事です。自分の中の知識だけでやっていこうとするので。他の生徒さんのも見れるというのがもの凄くでかいです。

柳田：でかいですね。もうこれ、やらせではないかというぐらい来ています。

渕野：多すぎてちょっとしか載せてないですね、これ。

藤永：本当多かったのです。全部平山さんのおかげです（笑）。ナレーションばかりに、みんないつているから（笑）。

平山：あれって。

渕野：こういう形で次が month go ですね。

藤永：はい。

渕野：いよいよ、ここからマンツーマン英会話が始まりますね。

藤永：そうですね。

渕野：はい。

藤永：ここでようやく英会話の1カ月目です。2カ月トータルやるのですけれども。いきなりスタートしなさいと言っても難しいじゃないですか、会話しなさいと。そこでトピックを準備しています。こういうことで、まず作文を作ってくださいと。それ間違ってもいいので。そこで作文を読み上げてもいいですと。まず、外国人の話す、アウトプットするのだというのに慣れてほしい。だから、いきなり、はいバイバイ、話してということはやらないということです。

渕野：なので、最初に藤永さんからのテーマをピックアップして。

藤永：そうですね。

渕野：そこに向けて皆さん。

藤永：そうです。もう本当に短い文章でかまわないので。慣れてもらうというのが一番大きかったです。

渕野：ここで実際のネイティブの個人指導が入っていきますので、話している中での失敗をプロがどんどん改善していく。

藤永：そうです、発音だったり。

渕野：その中で振り返りレポートというものを毎回、レッスンの後ありますので、レッスンメモというもので見てもらって改善していくと。

藤永：そうですね。でも、やっぱり僕らがあまりにも、当たり前ですけども、タイムリーで対応していこうというのがあって。1つあったのが、この先生がまた違う生徒さんと引き続きやるときに、レポートがちょっと1日間、あいたのかな。まだ来ませんとか。ありましたよね。まだあがっていませんとかあって。でも、そのサポート、慣れてくれるというのは逆に嬉しかったのです。そこまで期待してくれていると。普通、他のサービスはそこまで期待しないじゃないですか。すぐあがってくるなんて。みんな、そのサポートに慣れてくれたというのがあって、これは僕らがやってきた証でもあったので。逆にそれは嬉しかったです。クレームというふうには取らなくて、逆に嬉しかったなという。

刈野：本当はスカイプのレッスン日以外の日は、またソーシャルライズスピーキングを。

藤永：そうです。だから、これは継続しているということです。先ほど、1カ月で終わる、ずっと最後。

刈野：次が month の 6 ですね。そして 7 ですね。

藤永：ここで 1 期性の皆さんでやったときに、やっぱりどうしても平日時間が空かないとか、お仕事の関係でとか。やっぱり週末にガッツと詰めてしまうとかというのがけっこうあったのです。

刈野：最初、month6 だけで毎日レッスンしていたのですよね。

藤永：そうなのです。そこはちょっと。じゃ、2 日に 1 回のペースに変えたほうがいいのではないかというふうに思いまして、それで month6、month7 という形ですね。1 カ月毎日ではなくて 2 日に 1 回。で、2 カ月にわたるというのが、今回 1 期性と違うところになっています。

柳田：プラスと。

藤永：そうです。それはプラスですね。

刈野：実際の month5 から 7 の感想で。

藤永：最初、とまどう方ももちろんいらっしゃいますし、5 カ月目もそうなので

すが、だからこそ僕らがいるのだよということです。

渕野：多いのが、ここにも書かれて。恐怖心が薄れ、度胸がつきました。

藤永：そうですね。最初やっぱり怖がって。初めて外国人と話したという方が多かったのです。

渕野：抵抗感がなくなったのですね。スムーズに答えている自分がどんどん。

藤永：そうですね。ただ、やっぱりこれが最終目標じゃないですか。基本、このプログラムの中の。じゃ、いきなりアウトプットさせたからよかったのというのは、それではないのです。いきなり英語に聞くことから始めて、触れていなかったら、こういう感想は恐らく出てきていない。はい、もうすぐ諦めました、また。私、話せない終わり。で、終わっているのです。

渕野：自分でも驚くほど向上した実感しております。

渕野：会話中に笑うことができるなんて。

藤永：そう！　それが変わったという方もいらっしゃる、けっこう。

渕野：実際にスピーチコンテストの中で、英語のスピーチの中で、みんな英語の感覚で笑っています。

藤永：そう。笑っているのですよね。

渕野：リアルタイムでね。

藤永：リアルタイムで。それは、僕は言いましたけれども。皆さん、笑っているのではないですかと。素晴らしいことです。

渕野：ここの講師の先生方は素晴らしい方ばかりで、毎回、充実した 25 分間を過ごすことができます。けっこう、病みつきになられる方もいらっしゃいます。

藤永：そうなんです。

渕野：初めてスカイプも扱ったみたいな方でも。

藤永：そうですね。

柳田：これもけっこう講師採用というか、先生としてのね。

藤永：そうですね。ちまたにスカイプの英会話ってあると思うのですがけれども、じゃ NS6 と何が違うのかというと、やっぱり NS6 は基本方針ですよ、発音だったりとかに関してもそうです。こういうプログラムをやってきたんだと分かった上で、それでのレッスンで、レッスンメモですか？ っていうのは挙げていくっていうのは、たぶん他のサービスでやっていないことなので、常に僕らがバックに入るんだっていうことです。

柳田：まだまだありますね。

渕野：まだまだありますね、焦らなくなったこと。

藤永：これを一時停止してみてください。

渕野：爆発的にリスニング力が向上した。

藤永：結局、会話が始めると、また最初に戻ろうとする悪い癖が出てくるのです。理解してなきゃ理解してなきゃで、まず、答えなきゃ答えなきゃで、どうしても最初の集中とか全部忘れちゃっているというのもあるので、そこでもう一回僕らが違いますよね、もう一度、もう一度頭を聞くのだということ。最後まで聞くんだっていうことに集中してください、まず。

柳田：この方は凄い長いけど、凄い良いことを書いてますね。

渕野：心地良い達成感を味わっています。

柳田：凄い。

渕野：こんな形ですね。

藤永：そうですね。

刈野：ここにも書いていますけれど、手厚くきめ細かいサポート体制っていうのはずっとやっていますので。

藤永：さあ、これがですね、現地の講師たちからのメッセージが届いています。

柳田：2期生の皆様に届いています。

藤永：僕ひとこと言いたいの、やっぱり1期生の生徒さんたちがもの凄く良かったんですよ、皆、講師が。このままNS6続けたいって言うんですよ。

刈野：そうですね。多いですね。

藤永：ずっと。

刈野：ありがとうございます、本当に。

藤永：本当にありがとうございます。

藤永：もうそろそろ登場します。気持ちのこもったメッセージをちょっと見てほしいな。

柳田：僕らみんなが驚愕した。

藤永：驚愕したんですよ、実は講師の人たちが自分たちの思いを込めて作ったらしいんですよ。プロに任せてないんですよ。届けたいということでした。メッセージなので、ぜひ中川さんもオオシマさんも。

柳田：あいさつだけほしいっていったんですよ。

藤永：挨拶だけほしいって言ったら。

刈野：2期の皆さんにメッセージをくれたということを講師の方に伝えたら、メッセージ送りましたっていう形で届いたのがこちらです。

柳田：早朝みんなビックリしましたからね。

藤永：なんじゃこりやって言いましたもんね。

平山：クオリティ高い。

藤永：じゃあ、見てみましょうか。まずここからビックリしますよね。

洸野：良く用意しましたね、あれ。

柳田：これは素晴らしい、Tシャツが本物でしたよね。

洸野：シールじゃなくて。

柳田：あれだけじゃないですよ、もっといるんだけど。

藤永：全然います。

洸野：海外のサポートもしっかりしていると。

藤永：そうですね。

洸野：セカンドファミリーとして、お付き合いして。

藤永：セカンドファミリー。現地には日本人もいるので、そこでもバックアップ体制をとっています。

藤永：どれだけの人がかかわっているんだっていう。

柳田：そういうことです。

洸野：次ですね、ここで一区切り。

藤永：そうですね。これ 1 期生の皆さんでも勘違いというか、捉え方なんです、これで英語の勉強は終わったっていうことじゃなくて、英語にはずっと触れていくのです、今後も必ず。ただ、6 カ月間、いちおう皆さんとしては終了したんだよっていう、一つの区切りとしていただいてほしいなと思っています。

一つの証です。自信を持ってほしいということで、ただサポートは継続していきます、ここです。

柳田：よく見たら、Atushi Yanagida って書いてあって、これ。

藤永：いやいや、いいじゃないですか。

柳田：細かいと思って。

刈野：こういう NS6 のカードと終了証もらえます。

平山：継続サポートってどのこと？

藤永：そうですね。これ終わった後も、これこういう悩みがあるんだけど、リスニングをもう一回こういうことをやったらいいのだからっていうのを、私どもがアドバイスをしていくっていうことです。

刈野：自由はネイティブ化へのさらなる継続サポートということで、英会話の部分、アウトプット力とか、語彙もさらなる強化を目指す、フラッシュバックのトレーニングを配信していくっていう形ですね。もちろん最初にやっていた UZAWA 式のトレーニングの復習のような形で、もう一回触れてもらったりとか。

藤永：この 8、9、10 に関しては 1 期生の方も実は、継続してスタートしていますので。

刈野：プラス藤永さんの英語コーチング、サポートを引き続き。

藤永：いきます。いろいろ話しているのが、1 期生対 2 期生のスピーチコンテストをやりましょうとか、対抗でとか、いろいろ考えているのです。だから、チームとして。

刈野：参加者との交流の機会というのも、ここで引き続きやっていくと。実際に、Facebook グループでも立ち上がって、各地方だったり九州から四国から、全国。

藤永：いますね、全国。

刈野：四国も多かったですね。

柳田：四国も多かったですね。僕と同じ同郷の方もいましたし。

柳田：つまり、1期生が切り開いてくれたからこそ。

藤永：1期生には感謝なんですよ。

刈野：本当にありがとうございます。

柳田：1期生の方はそこに乗っかることができるっていうことですもんね。

藤永：そうです。

刈野：英語を使ってやりたいことを事前にできる、毎日がスタートして行こうっていうことですね。卒業後、こんなになりましたと。

藤永：そうですね、スピーチコンテストダイジェストというかあるのですが。

藤永：そうですね、画面の下にあるのでぜひ。

柳田：追加しているので、ぜひ見ていただいてほしいなと思います。

藤永：ほしいなと思います。ビックリします。

刈野：ぺらっぺらですもんね。そうですね。

藤永：実際の人物が出てくるので、お待ちいただければと思います。

藤永：じゃあ、ここでとうとう、この後出てきてもらいます。

柳田：出てきてもらいます。

藤永：じゃあ、一旦事務局の二人にははけていただいてということで。

柳田：カウアイ島の方に。

鶴岡：ありがとうございました。

藤永：ありがとうございます。それでは、飛びます。いえーい。

藤永：おー。お二人登場しました。お名前。

柴：僕は柴と申します。

藤永：柴さん。

中川：私は中川フミコです。よろしくお願いいたします。

藤永：お願いします。はるばる関西の方から来ていただいて、ありがとうございます。

柳田：お二人がスピーチコンテストのグランプリの二人ということですか？

藤永：グランプリです。実は一人だけ優勝者を決めようと思ったのですが、甲乙付けがなくて、もう二人選出させていただいた感じです。

柳田：その時のノリで今回も来てくださいますか？

藤永：急遽ですよ。

平山：すみません。

柴：関西から来ました。

藤永：本当凄いですね。

柳田：ちょっと少しだけきっかけとか、何で入ったかとか。

藤永：そうですね。

柴：僕は仕事で英語を読んだり書いたりすることは割とやっていたと思うのですが、話したり聞いたりということもちゃんと出来ないといけなくなってきたのですが、なかなか上達しないというか、読んだり書いたりっていうのは自分のスピードで、いろいろと考えて、一生懸命理解することが出来るのですが、話す、聞くっていうのは、ネイティブのスピードについていけなくちゃいけないし、そのついていくときにちゃんと理解して、ちゃんと自分の意見もまとめて、ちゃんと発信するというのが、どうしても出来る気がしないというか、まずどう頑張ればいいのかよくわからなかったし、何かないかなと思っているときに、NS6 のそういう講座があるっていうことを知って、これだったら、もしかしたら出来るんじゃないかというふうに思ったというのがきっかけです。

藤永：実際どうでした？ 6 カ月間のプログラムの感想だったりとか。

柴：英語に対する感覚っていうのがまったく変わってしまいましたね。凄く英語は難しいものだと思っていたし、周りにも話せない人はたくさんいるし。でも、特に語順感覚っていうことをさっきおっしゃっていましたが、語順が違うので、英語でここ言っていることは日本語では後ろに持ってきて、英語で後ろで言っていることは真ん中らへんに持ってきてっていうことを常に頭の中でやっていたり。文法の力を総動員して理解しようとしていたのですが、トレーニングを積んでいくうちに、ちゃんと前から聞いて、全部聞けば聞き終わった後にちゃんと理解できて、自分の意見を作り始めている自分がいて。

柳田：素晴らしい。

柴：できてきて、凄い自分でも不思議だったんですけど、本当にそれは藤永先生のおかげと一言で言えると思います。英語に対する感覚が全く変わってしまいました。

柳田：あのスピーチ素晴らしかったですね。

藤永：凄い。原稿全く見ずでしたね。

柴：あんなこと半年前は出来なかったですよ、もちろん。

藤永：嬉しい、嬉しい。

柳田：堂々と自分の主張を述べられていて。

柴：凄い緊張していたのですけれど。

藤永：いや、あれは緊張しますよ。緊張しますあれは。

柳田：あんな人前で。

柴：実はあんなに人がたくさん来ていると思ってなくて、凄い緊張しました。

藤永：あれは凄いな。

刈野：いきなりスピーチの順番を決められて。

藤永：そうなんですよ。

柳田：しかも、正直、女性 10 名、男性 2 名だったのですかね、残ったのが。

藤永：そうなんです、そうなんです。

柳田：これやっぱり女性だなと思ったら。もう凄いと思って聞いていて。

藤永：ビックリしましたもんね。

柴：ありがとうございます、なんか。

藤永：感動しました。ぜひ動画で見てもらえば。

柳田：そうですね。素晴らしい。

柴：誉めていただけるとまた、自信になるので、もっと頑張って勉強しようっていう気になりますね。

平山：柴さんはこのプログラムやられて、自分の言いたいことが言えるようになったり、しゃべれたり、何かお仕事とかプライベートで何か変化とかありま

した？

柴：そうですね、仕事はやりやすくなりました。たまに、国際的に外国の同僚に説明しないといけない時があって、今まではもの凄い緊張しながらやっていましたけれど、普通に日本語で発表するのと同じとまでは言いませんけれど、そのくらいの感覚でのぞめるようになったし、普通に日本語で気軽に冗談が言える感覚で、ちょっと笑いを取ってみようかなとか思ったりとか、そういうふうに日本語。

藤永：余裕ができてきたんでしょうね。

柴：英語だからどうこうというのじゃなくて、日本語と同じように楽しむためのコミュニケーションのツールなんだという感覚が出てきましたね。

柳田：その変化は凄いですね。

柴：英語はお勉強するものではなかったんだなというのが大きい。

柳田：後継者の一人じゃないですか？

藤永：いや、本当そうですよ。嬉しい。

柳田：大きく変わったのが、勉強、英語好きになりましたっておっしゃっていましたよね。

柴：いや、むしろ英語は嫌いでした。頭を悩ませるもの凄い難しいものだと思っていたし、英語を勉強しないと思うだけで、気が滅入っているような状態だったものが、英語ってでも考えてみたら当たり前なんですけれど、コミュニケーションのツールなんですよね。

藤永：そうですね。

柴：いろいろな人の意見も聞いて、自分も言うための単なるツールなので、日本語と同じように楽しく使いこなせばいいだけのはずなのに、なんで今までこんなに難しく考えていたのかな？ っていうのが今考えれば。

平山：へー、凄いですね。

藤永：嬉しいですね。

柴：自分の変化に自分でビックリしました、実際。

藤永：まあでも、この NS6 がもちろん終着点ではないので、動画のプログラムの説明でやったんですが、継続して触れていってほしいなっていうのがあるので、まずこのプログラム自体が一年間ずっと公開していますから、いつでも触れてもらえればと。

柴：好きになった以上、ずっと触れますよ、そりゃ。嫌いにだったら触れませんが。好きになっちゃったので。

藤永：嬉しいです。

平山：プログラムの最中の藤永先生のいろいろなサポートとかいかがですか？

柴：僕、本当に何回も迷惑を。

藤永：そうなんです。

柴：藤永先生に風邪を引かせてしまった一人だと思うのですよ。

藤永：まさしく張本人です。でも、それくらい必死さと言うか、そうそうそう。

柴：だからここにいるんですもんね。

藤永：そうなんですよ、だから遠慮してほしくないですね。NS6 の皆さんにも、遠慮したら損です。一人じゃないんだよというのを、でも、どんどんどんどん柴さんみたいに使ってほしいなと思います。

柴：本当にビックリするくらいお返事が速くて、いつも元気づけて、勇気づけていただけるので、もっともっと頑張ってみようって、本当になりましたので。

藤永：ありがとうございます。一生のお付き合いをしたいですね。

柴：そうですね。

藤永：一生のお付き合いをしたいと思います。

柴：ここまで育てていただいた、気持ちがあるので、ぜひよろしくお願いします。

柳田：他のサポートとか、ソーシャルライフ、フィリピンも含めて、事務局とかも含めて、その辺はどうでした？

柴：そのフィリピンの先生たちも、事務局も含めて、本当にきめ細やかな対応をして下さって、スカイプなので、どうしてもインターネット上のトラブルがあって、先生が直前で変わっちゃったりとかいうこともあるんですけど、必ず事務局の方からメッセージだったり、通話だったり、事情説明して、大丈夫ですか？とか、こうこうこうなので、先生変わりますけど、頑張ってくださいねみたいな感じで励ましてくれる。凄いきめ細かく。

藤永：そこは僕、徹底しましたね。そこは予約したから終わりじゃなくて、いろいろな事情もあるので、そこは僕らの改善点の一つでもあるんですが、2期生に向けて、もうちょっと整備をしていかないといけない反省点もあるんですが、そこで1期生の皆さんに迷惑をかけたところがあって、ただでも、1期生の皆さんがフォローしてくれて、いろいろな叱咤激励もあり、改善できた。行けるっていう所もあるので、本当に一生懸命取り組んでいただいたおかげなので、その代わり毎日楽しく、っていうのをテーマに、お勉強じゃなく。

柴：取り組みたくなるんですよ。

藤永：ありがとうございます。嬉しい。勇気づけられます。

柴：本当です。本当です。

柳田：リハーサルなしですもんね。

藤永：急遽、本当にリハーサルなしですからね。本当ないです。

柴：急に呼び出されて、ハワイまで来て、みたいナ。

柳田：ちょっとじゃあ、2期生に向けてメッセージみたいなのをカメラに向かって言っただいて。

柴：そうですね、英語の嫌いな僕でも本当に英語が好きになって、自分自身でもビックリするくらい上達した、というふうに思っています。なので、英語がなかなか、上達したいけど出来ないって思っている方々もぜひ、藤永先生のレッスンを受けて、ビックリするくらい英語が使える自分になっていただけたらいいんじゃないかと思います。一緒にがんばりましょう。

藤永：ありがとうございます。じゃあ、次、中川さん。

中川：あのね、私は65歳なんですけれど、4年前からずっと母の介護をしていて、最終的に思いっきり介護できて、結局、去年の5月に母が亡くなって、それでいて本当にふにやふにやという感じになってしまっ、これから本当に何しようかなって思ったりしているときに、これと出会ったのですけれど、恥ずかしい話ですけど、先ほどの柴さんのように高度なあれは何もないのですよ。ただ、もう一度またやり直してみようかなというふうに思ったのです。恥ずかしい話が、ミニッツですね「分」の、そのつづりを書こうと思ったって、何やったかなっていうその程度です。

藤永：あのスピーチコンテストで想像がつかない。本当に想像つかない。

中川：初め、英語に触れない期間が凄く長かったんで、本当にやれるかどうかと思いました。やっているうちに自然に連れて行ってもらえるんですよ。ゆっくりゆっくり行けるので、1日25分でしょ。これはやってみようと思って、これいいですけど、初めはよしよし、出来る出来るって思いながら、ちょっとずつ文章が長くなったりしますので、それにはためらいもありますけれど、続けたら絶対に出来るようになります。

藤永：「分」が書けなかったって、スピーチコンテスト見たら、想像つかないと思いますよ、皆さん。

中川：本当に忘れていたんですよ。長い間、単語なんて書かないですからね。

平山:そうですね。

中川:恥ずかしいですよ。だから皆さん、それでも OK ですから。

藤永:あー、嬉しい、嬉しい、嬉しい。

渕野:最後、英語の歌まで。

藤永:そうでしたね。あれには度肝を抜かれました。本当に、ビックリですから。

中川:とにかく歌うことが凄く好きなので。

藤永:スイミングも好きですもんね。

中川:そう。それで結局、何かちょっと違うことしたいなって思って、そうしたら英語も短くて済むし、とかって思いながら、それで最後に歌って、本当に柴さんと一緒に優勝させていただいて、夢のようです。

藤永:アンケートを会場にいてくださった方々に、誰が良かったですかという審査をしてもらったのですが、私たちが勇気をもらいましたというコメントがもの凄く多かったです。お互い刺激しあえたのも良かったのかなとありますし、1 期生が。

中川:本当に若い人たちが、「中川さん、本当にありがとうございました。勇気づけられました！」って本当に言ってくれました。

藤永:そうですね、記念撮影されてしまったものね。僕じゃないんですよ。僕じゃなくて、中川さんと記念撮影ですから。

中川:握手求められて最高ですよ、そんなの初めてですから。

藤永:スターですよ。

中川:もうその 2 日間くらい眠れませんでしたよ。寝ようと思ったけど、眠れなかった。素晴らしい体験ですよ。皆さん、それも必ずそういうふうになりま

す。

藤永：嬉しいです。それくらい素晴らしかった。

柳田：いや、本当にすばらしかったですね。

藤永：あれには感動しました。

柳田：ちょっと歌ってもらいますか？

藤永：いいですね。じゃあ、一回そこでワンフレーズを。

中川：コンフィデンスですか？

藤永：はい。

中川：こんなん聞いてなかった。聞いていたら練習してきたのに、本当に歌うん？

藤永：いやいいですよ、ワンフレーズ。どうぞ。

中川：I have confidence. Confidence somemore beside which you see I have confidence in me.

平山：素晴らしい！

藤永：凄いでしょ、凄い。歌だけで優勝したわけじゃないですからね。しっかりスピーチがあつての歌なので、いや、本当に感動しました。大勢の前で、英語の「分」を忘れていた人が話すのですから、それは凄い。

柳田：6 カ月ですものね、発音も二人とも素晴らしい。

藤永：キレイでしょ？

平山：素晴らしい発音。

藤永：発音もの凄くキレイなんです。自信持ってほしいなと思います。

平山：でも、これだけしゃべれるようになって、いろいろやってみたいこととか、チャレンジしてみたいことって生まれてきたりしたんですか？

中川：あります。やっぱり、ここまで来たら外国でも行って、ちょっといいかっこをして、ちょっとペラペラしゃべりたいし、映画もサブタイトルなし

藤永：えっと、字幕ですね。

中川：そう、字幕なしとか、いろいろと夢が人生コレカラってよくいう感じですね。

藤永：あー、嬉しい。

中川：高齢者になってから、これからですよ。

柳田：東京オリンピックも？

中川：もちろん行きます。

藤永：そうです。

中川：すみません、遅くなりまして。

藤永：でも、チームは家族なので、ずっと一生お付き合い出来ればなと思っています。

中川：いや、本当に皆さん来られたら分かりますよ、この先生の人柄、スタッフの人たちの良さ本当に肌で感じますから。

藤永：嬉しい、ありがとうございます。

中川：これは本当に嘘ではありません。ね？ 柴さん。

柴：本当に。安心して続けることができる。常に、実際にお会いしている回数

なんて、ほとんどないはずなのに、常に見守ってくださっている、常に応援してくださっているな、っていうのが常に感じるのですよね。それは凄く支えになります。

藤永：嬉しい。

平山：藤永先生、大丈夫ですか？

藤永：最後のメッセージ本当にね、動画で泣きそうっていうか。

中川：泣いてはりましたよね。それを見て私、やっぱりこの先生の人柄は凄いなと思いました。それは分かりますよね。表情を見ていたら、大好きですよ。

藤永：ありがとうございます。本当に、お友達です。すみません、本当に。

柳田：でも、本当に多いと思います。中川さんみたいに、惚れているというか、藤永さんのために、っていうことですよ。

中川：本当にそうですよ。

藤永：今、タンタタンって鳴ってる（笑）

柳田：お祝いの音です。もういいじゃないですか、これもいいです。

藤永：そうですね、でも、さみしかったんですよ。これも 6 カ月で区切りがあるんですけど、だからこそ続けていきたいっていうのがあるので。

渕野：1 期の皆さんもこれからも、関西組のリーダーになっていましたし。

中川：そう、関西組もいるんですよ。

柳田：やばそうな、元気よさそうな。

中川：だって、優勝したの私ら二人とも関西ですよ。

柴：関西組きっかけにどんどん、四国から、九州から、東京からってたち上が

っていきましたもんね。

藤永：1 期生の優勝者なので、本当に堂々としていただいて、引っ張って行ってほしいです。

中川・柴：いきますよ。

藤永：本当に引っ張って行ってほしい。それくらい自信を持ってもらって結構だと思うので。

柴：もっと上達した姿を藤永先生を初め、皆様に見ていただきたいなと思います。

藤永：1 期生の優勝者なので。ずっとその、1 期生と 2 期生とやっても、追いつかれないですよ。

中川：大変やな。

柳田：そうですね、ぜひやりたいですね。

藤永：そういうのも企画してるっていうのを。

柳田：じゃあ、最後にメッセージを 2 期生の皆さんに。

中川：皆さん、年齢とか全く関係ないですよ。これから何かやりたいことを見つけたら、やってダメならそこで諦めたらいいっていう言い方もありますけれど、これは諦めないで続けていけます。本当に素晴らしい。これは嘘でも何でもないですよ。この先生、スタッフ皆さんたちの、その力っていうのは凄いですから。だから、皆さん本当に一度やってみてください。必ず成功しますよ。

全員：ありがとうございます。

藤永：いいですね。本当に 1 期生が終わったんだって思っ。

柴：まだまだ質問したいことがあるので。

藤永：いやいや、それはどんどんサポートしていきます、継続して。今後もよろしくをお願いします。

柴：こちらこそよろしくお願ひいたします。

柳田：お二人に会いたい場合は、2期に入ってください。

藤永：そうですね。

中川：歌を聴かせますからね。

藤永：なんか、やってきて本当に良かったなと思います。生徒さんたちが良かったので、僕も続けてこられたっていうのもこれは絶対なので、だから、今回、2期になりますけれど、もちろん悩んでいる方もいっぱいいらっしゃると思うのですよ。でも、このようなお二方もいるんだということを知ってほしいなと、わざわざ関西から来ていただいて、それを伝えて欲しかったのですよね。

渕野：すみません。ありがとうございました。

藤永：ありがとうございました。

渕野：じゃあ、飛びまーす。せーの、ヒューン。また事務局の方に来ていただきました。

柳田：どうでしたか（笑）

藤永：違う島に行ったのですよね。

渕野：じゃあ、次ですね。ここからスタート時期についてです。気になると思うのですが、スタート時期。本スタートに関しては6月1日からになります。先ほどのカリキュラムにしたがってスタートしていきます。で、6月スタートに先駆けて、5月中旬から準備やフォロー、トレーニング等もおこなっていくかたちになります。

渕野：次です。受講スタイルに関してですが、まずトレーニングの動画関係、オンライン動画と音声形式で配信していきます。これが、1日25分で完結と。

見るでも聞くでもオッケーという形で、どんどんトレーニングしていきます。

藤永：25 分ぐらいがやっぱり 1 番大事っていうことですね。これが 1 時間、2 時間とかっていらないうところですね。続けていくには、この時間が最適だっていうこと。

荏野：しかも、簡単でガイドに沿って進むだけでいいように組まれていますので。好きな時間にできるマンツーマンスタイルっていう形で。

藤永：ついでに僕に話しかける感じで。

柳田：そうですね。マンツーマン感覚の受講トレーニングです。そのほかにも、ソーシャルライフスピーキングのような形で、レバレッジ型のレッスンも。みんなを受けて、みんなで英語をマスターしていくって形をどんどん作っていきます。サービス、サポートについてです。この体制でサポートします。

藤永：もの凄い。これに映ってない方、フィリピン現地の方なんて、今回総勢たぶん 600 人近くです。

平山：わー、凄い。

藤永：ソーシャルスピーキングも同時進行していくので、あっちもリアルタイム、こっちもリアルタイムっていうことで、たったここに 4、5 人しか映っていないですけど、この 4 人がやるわけじゃないですからね。これだけじゃ絶対に無理なので。

柳田：600 人なんですね。

藤永：そうです。大変でした、採用から。

柳田：そうですね。

藤永：あと、事務局もそうですけれど、もの凄い。だから、僕のわがままを聞いてくださった方々もいるので、それもすべて生徒さんたちのためだと。また 2 期は 2 期でスタートして、こういうところを改善してほしいというのがあれば、いつでもいつでもそれは言ってほしいなと思います。

刈野：そうですね。上の講師陣達でトレーニングしながら要望があったら事務局のほう、そして、制作スタッフまで総動員で常にカスタマイズして。

藤永：すべてリアルタイムで動いている感覚です。

柳田：何かあれば鶴岡さんへと。

藤永：そうですね。

鶴岡：すぐに改善します（笑）

刈野：寝ずに改善します。実際にしてきましたので。

刈野：そして次ですね、事務局が徹底サポート。

藤永：そうですね。これがもうずっと言ってきたことなんですけれど、基本的には一人ぼっちにしないよと。もうその想いで動いているだけです、24時間。

柳田：2人もね、徹底。

藤永：これは本当にご協力いただいて。僕1人だけじゃどうにもできないので、それはもう協力いただいて。

柳田：これ、でもなかなかできる所ないですよ。言うのは簡単ですけど。

藤永：そう、言うのは簡単でしょ。そうなんです。

柳田：これはね、NS6+だけの。

藤永：そうです。普通だったらプログラムだけで自動的にやっていく。ここはすべて人が関わってくるので、そこにも手を抜いてないということです。

刈野：最高の講師陣がレッスン。

藤永：そうですね。最高の講師陣に僕がいないんですけれど（笑）

柳田：もう出過ぎたから（笑）

藤永：もう見なくていいですものね。もういいです。

潤野：平山さんを始め...

藤永：これが動画だと平山さんがメイン（笑）最高の講師陣ってめっちゃでかいじゃないですか。

平山：すみません。

藤永：いいんです。

柳田：もうシールありませんからね、自分の。平山 7 みたいなのをやろうとしているんじゃないかな。

藤永：ビックリしました。僕がくるものだと思っていたからね（笑）。

潤野：次かもしれないですね。

藤永：そうですね。次にくるかもしれない。

潤野：次が、ドンと（笑）。

藤永：僕、ここで挿絵みたいな感じじゃないですか。そうですね。面談は非常に重要ですね。今回も言ったように、インプットが終わったあとから始めます。これはやっぱり非常に大事なので、そこでまた、うまくインプットからアウトプットに移行できなかった方には、1 期生の声とかもあるので、それも反映させてアドバイスできればなと思っています。これはだから、2 期生はラッキーなんですよ。本当にラッキーだと思う。

柳田：いや、ラッキーです。

藤永：そうでしょ、中川さん？　そこでまだ、お待ちいただいているんですよ。

刈野：いつでも相談もずーっとありますよね。

藤永：僕、思うのです。1 期生の皆さんがこれを見たら、「えー、羨ましい」ってたぶんなと思います、それは。凄いラッキーなんじゃないかなと。

柳田：本当に。

刈野：次ですね。ネイティブ講師とのレッスン。

藤永：僕がなかなか出てこないです。

刈野：レッスンを一緒にやっていきますね。先ほどの英作文をプロがリアルタイムで添削、音声付きの形で。

柳田：本当にすばらしい。これは凄いですよね。

藤永：これが、本当にサービスがどこにもないので、もう自分が書きたいのをどんどん書いてほしいなというふうに思っています。

刈野：何度でも投稿 OK ですからね。

藤永：そうです。ほぼリアルタイム。

刈野：T シャツもいいですね。

柳田：本物ですから。

刈野：次ですね。スペシャルギフトです。

藤永：この 1 つ目があれでした。

柳田：また出ました。

藤永：僕もうこればかりですよ。

刈野：バックアップ体制を。

藤永：修了後もサポートしていくってことです。

柳田：これは本当に 2 期以降っていうのは、さらに忙しくなってくると、後継者の育成もしていますし、なかなか完全バックアップっていうのが取りづらいこともありますよね、考えられるのは。

藤永：なので、そこらへんも含めて、1 期生、2 期生をサポートしてくださる方っていうのも、ちょっと考えています、そこは。どういうふうにできるのだろうってところを。

柳田：逆に言うと、ここを逃すと、3 期、4 期とかって待っていると、ここまでのサポートができなくなる可能性はありますから。風邪を引きすぎると、本当にもうやんなくなっちゃう（笑）

藤永：そうです。

平山：ショウガ、ショウガ。

柳田：ショウガ（笑）大量に送られてくる（笑）

藤永：修了式にショウガをいただいたんです。ショウガっていうか、ハーブティーをいただきました。それも含めて、嬉しかった。心配させた僕もいけないのですけれど、そこまでやらないと、できなかったりとかあるので。嬉しいですね、本当にそこは。

渕野：次ですね。ネイティブラッシュオンライン版をプレゼントですね。こちらはもうリンクを徹底的にやるんですよね。

藤永：これが数当てトレーニングっていうところでつながるのです。音と音がつながっているっていうことで、これを徹底してまず見てもらおうと、数当てトレーニングも楽になってくるっていうところです。これはいちおう、前準備としてお渡しする？

渕野：そうです。Month 0 で。

藤永：要するに、スタートするまで、ぜひこれは。ちょっと真面目な僕が出てくるので、そのギャップの反響があったんです。凄い真面目ですとか。

渕野：ここでは真面目な藤永さんとキャッチボールするだけって感じ。

藤永：凄い真面目です。「リンキングとは」とか言っていますから。

柳田：これも、本当は 2 万 9000 円が 1 万 8800 円とかなっていますけど、無料でついてくるのですね。

渕野：そうです。無料です。

藤永：これも無料で。

渕野：オンライン版ですよ。

藤永：これが教材としてはもの凄い反響でした。やっぱり音とかが凄い。要するに、“When I ~?”だったり、“Did you ~?” だったりっていう、音と音がつながるのは学校ではたぶん教わらないんですよ、音とのつながりっていうのも。そこを徹底して、いろいろなパターンがあるので。

柳田：でも、真面目なんですよ？

藤永：凄い真面目です。この頃、まだ、僕はこれを出したあとに同じような商品を出したりとか、書籍が出たりとか、実はしたのです。それで、反響があったやつなので、ぜひそれは見てほしいなと思います。

渕野：次は特典 3 ですね。お笑い芸人による笑える英会話教材、ボンバースマイルですね。

藤永：これも実は、楽しみながらというコンセプトでいちおう作ったのですが、もちろんこれもそうですけれど、ワンウェイであって教材なので、いちおう楽しみながら英語に触れるっていう感覚です。ストーリー形式になっているので。

渕野：なので、ここを笑えるような英会話ストーリーで学べるような形です。

藤永：けっこうおもしろいです。

柳田：2万5000円です。これは全部ついていると。

藤永：そうです。

洵野：次は特典4ですね。マスキリスニング。こちらもおんラインの教材プレゼントって形ですね。

藤永：これもリスニングに関するもので、僕がやっていたものなのですが、音を基本的にリズムとして聞くっていう、今回のコンセプトとさほど変わりはないのですが、英語を理解するんじゃなくてリズムの感覚をまず身につけましようっていう教材です。

柳田：1万9800円つくと。

藤永：そうです。これも。

柳田：これが・・・？

洵野：今回限りということで、総額6万7104円。

藤永：そんなするんですか。

洵野：今回無料でプレゼントっていうのをさせていただきます。

柳田：このプログラムの費用にもう入っていますよってことですよね。

洵野：はい。

柳田：もうこれはね。

洵野：参加してほしい人ですね。

藤永：これは冒頭でも言ったことなのですが、基本的に英語に関してアレルギーを持っている方が、もの凄く多いというのは現実だと思うので、それを少し

でも楽しみながら、もう 1 度リセットしてほしいなっていうふうに思います。今まで単語を覚えられない、話せない、聞けないって言って、私はできないんだって思うんじゃないくて、英語とはまったく違うんだ、もっと楽しいものなのだっていうのを、感じてほしいなっていうふうに思っています。

渕野：次ですね。アナタが参加したら変わりますと。

藤永：そうですね。この前の修了式の時のスピーチコンテストの時に、TOEIC の点数が上がりましたって言って、そのデーターを持ってきて、NS6 が始まって 150 点いきなりポーンって。始まって 2 カ月目ぐらい。リスニングをやっている時です。急にポーンっと上がったっていうデーターを持ってきていただきました。

渕野：この前のちょうど感想が来ていたものでも、TOEIC でも過去最高のスコアが取れました、今までと違う感覚でテストを受けましたって。

藤永：社会人として TOEIC が必須になっている時代があるのですが、僕は TOEIC だけに挑む、その勉強だけをするっていうのは本末転倒だと思っているのです。英語は基本的に聞いて話すもの。これが大前提であっての TOEIC だと。じゃあ、その方が TOEIC 対策をやったかっていうと、実はやってないのです。TOEIC 対策をせずに点数が上がったってことで驚かれているっていうことなので。それは、僕が会社とかで企業研修に行って英語を教えるのですが、TOEIC だけじゃなくて、英会話を教えるってことは必ず並行してやっているのです。それはなぜかっていうと、本末転倒になる。やっぱり英語を楽しんで話して、その上での TOEIC なんだってことを、皆さんもう 1 回感じてほしいなと思います。巷にいっぱいありますから、テキスト、TOEIC 対策とか。それで英語力が上がるのかっていったら、ちょっとそれは違うことなので。

柳田：僕はいろいろな理由があると思うのですが、英語をやりたいっていうのは。もちろんお仕事の方もいれば、映画が見たいとか、外国人と友達になりたいとか、なんでもいいと思うのですが、きっかけは。ただ、1 つ言えるのは、まずスタートするならまず NS6 から始めていただければ、先ほど出られた中川さん達もそうですけれど、柴さんもそうだけど。できるようになると、また違う目的も出てくるじゃないですか。世界に行きたいとか、いろいろ話したいとか。だから、今の目的はなんでもいいと思うのですが、やるんだったら、まずここからスタートしてほしいなというふうに思います。

柳田：皆さんの募集はこちら。4月22日水曜日のお昼12時から。25日の土曜日までの4日間、84時間の限定募集とさせていただきます。ただしですね、すでに前回から先行募集で入ってらっしゃる方が、かなりいらっしゃるのと、一期生の募集の時は3日間、60時間といていたんですけど、わずか1時間で締め切ってしまったと。ただ2期どうなるか分かりませんので、これだけ設けてますけれど、すでにもう一期生が1時間で埋まってしまったこともあって、どうしても二期やりたいという方は入っていただいている部分もありますので、残りわずかからのスタートとなります。そして、気になる受講料なんですけれども。

これだけ引っ張りますけれども（笑）

藤永：How much？

柳田：当日発表で、これは楽しみにしておいていただきたいなと思います。今日は本当にとにかく、値段というよりも、まず内容とか、われわれの想いついてのを知っていただきたいかったのが1つと。募集は分割払いもご用意していますし、クレジット、銀行振込等々いろいろありますので、そのあたりは分割を使えば非常にリーズナブルにお得に参加できるようになっています。これだけはいろいろあると思うのですが、当日までまっていたきたいなと思います。1期生もまったく同じような形でしたけれども、1時間で埋まってしまったということです。これだけのサービスなので、非常に、先生からは言いづらいでしょうけれども、非常に安いと（笑）

藤永：だって僕、いいです・・・（笑）僕の想いはそこじゃないので、本当にサポートがどうやってできるかっていうことしか、僕は頭にないので。それは何名来ても変わらないので。質を落とすつもりもないですし、そのことしか今ないです。

柳田：1期生よりは多少サポート体制を整えているので、慣れた部分もあるというのはありますけれど。

藤永：もっと臨機応変にできるのかなって思います。ただ、悩まれているのであれば、当日見ていただいて。1期の時に、面談をするじゃないですか。募集を

して、お申し込みをされて、それで面談をするんですけど、6時からでしたよね。5時からスタンバイとか。中川さんも5時から。実は、シャットダウンしちゃいけないからって言って、コンピューター2台で対応とか。ブラウザを2つとか。絶対申し込みたいんだっていう想いも伝わってきたのです。それで、されたってことなので、その想いに応えたいってことしか考えていないです。

洸野：意気込みがすごかったですね。

藤永：意気込みがすごかったです。

洸野：やっぱりそれもあって、こちらも常に全力でやってこれたっていうのがあります。

藤永：何時発表でしたっけ？

柳田：6時発表です。朝の6時発表になります。

藤永：じゃあ、また5時からスタンバイ、してもらわなくてもけっこうですけど。

柳田：お昼12時なのですけども、こちら、少しでも興味があれば最優先案内にご登録頂ければ、通常より6時間はやく、4月22日の朝6時からお申し込みが可能になります。

藤永：僕がいうのも何ですけど、クレームじゃないんですけど、登録してなくて申し込みたいという方がけっこういらっしゃったので登録しておいたほうが本当にいいと思います。

柳田：おそらく値段、ゆっくりね。はじまってから3日間あると思われていた方もいらっしゃると思われましてし、われわれも本当にそこまで来るとは思わなかったのが急遽デザイナーさんを叩きおこして止めなければサポートができない。

藤永：そうです、そうです。

洸野：1時間でちゃんとみたいからストップしよう。

藤永：だから僕、そこがビジネスライクでいたくなかったところですね。
サポートが一番だったので。そこは制限させていただきました。

柳田：なので少しでもご興味があれば登録していただくことをおすすめします。

柳田：そして、ふたたび戻ります。1 番最初に、英語ができたらっていうようなことで考えていただきましたけれども、たぶんここまで聞かれた方は、これはできるんじゃないかなというふうに思ってきたんじゃないかと思います。本当にだから、皆さんが想像していることっていうのは、可能になるんじゃないかなと。NS6+で 2015 年 6 月から学んでいただければ、16 年にはこんなふうに飛んでいるんじゃないかなと。

藤永：ジャンプ力、えげつなくないですか。でも、それくらい飛躍できますよ。

柳田：柴さんは凄い飛躍。

藤永：柴さんがめちゃくちゃ飛躍されたでしょ。こんな感じで飛んでほしいなと思います。本当に冗談じゃなくて。それぐらいの気持ちになれるんじゃないかなと。自信があります、僕らも。そこまでサポートできる自信があるので。
Come & Join us! Let's enjoy English. ですね。

柳田：楽しむっていうのが特徴ですね。

藤永：楽しもうってことです。これは NS6 だろうが、NS6+だろうが、それは関係ないってことですね。楽しむってことは常にある。僕らのサポートもあるってことは、これだけは絶対に変わらないことなので。

柳田：2 期生の先に、1 期生との合流もありますし、交流もありますし。

藤永：交流の場を。要するに、継続させたいってことです。続けてほしいという気持ちがありますので、それは絶対に僕らも力を抜かない。全力でサポートしていきたいと思います。本当に事務局の方もいらっしゃいますし。

柳田：面談の時に、皆さんに会えると思いますし、あと 12 月にはありますよね。
修了式は 12 月？

洸野：そのあたりで皆さんに会える場所も。パーティーだったり。

藤永：平山さんの声は毎日聞けますし、僕も必ず毎日登場しますし。その登場シーンも楽しみにしてもらえればと思います。

洸野：じゃあ、最後に、こちら一人一人メッセージをいきたいと思います。

小森：じゃあ、私から。メールにてサポートをさせていただきます。どんな些細な質問でも構いませんので、ぜひどんどん利用して上達してください。お待ちしております。

洸野：すばらしい。

柳田：本当に献身的な。

藤永：本当、そうですね。

鶴岡：初心者の方とか英語が苦手な方とか、不安なのかなと思うんですけど、やっぱり 1 人でテキストをやったり動画を見たりとかって結構大変なんじゃないかなと思うんです。あと、藤永先生をはじめ、われわれが本当に親身になって相談にも乗らせていただきますので、本当に些細なことでも楽しんで身を置ける環境にいて、学んでいただければ楽しく続けて、英語も学べるんじゃないかなと思いますので、ぜひ一緒に学んでいければと思います。よろしくお願いします。

藤永：鶴岡さんもいつも寝ずに頑張ってやっていました。コンテンツの調整とか。

柳田：よくメールで書き起こしているメッセージ。

藤永：そうですね。僕が動画メッセージをやるんですけど、その時に、動画が見れない方がいらっしゃるじゃないですか、通勤中とかで。書き起こしでやってくれているのは鶴岡さんです。

鶴岡：お忙しい方がいると思うので、スマホで見れるような環境も作りたいな

と思っていますので、どなたにも。

藤永：僕は話が飛んだりもするので。

柳田：いつしか、みんな動画を見ずにそっちばかり。

藤永：動画の再生回数がもの凄く少ないなと思ったら。でも、けっこう見ているみたい。そういうのもやってもらったんです。書き起こしまでやってもらう。専門職じゃないですからね。すみません。引き続きお願いします。

鶴岡：お願いします。

荻野：NS6+になって、皆さんをお迎えしたいと思っています。私達スタッフも藤永さんも全員、どんな人が来ても対応できるようにしていきたいと考えていますので、この6カ月から10カ月で、絶対人生が変わるような道を作っていくためのサポートを全力でやらせていただきたいと思います。ぜひお待ちしております。

柳田：皆さん、ここまで無料で受講されて、たぶん、もう今までの英語教育というか勉強で革命が起きてるんじゃないかなと思います。それは私も体験しましたし、1期生の皆さんも体験したことなんだと思うのですけれども、本当に藤永さんのメソッドは本当に凄いと思うのですけれども、僕が一番伝えたいのは藤永さんのハート、想いの部分が、僕もいろいろな先生とやっていますが、本当に生徒さん想いで、すばらしい先生なので。褒めすぎましたけれど（笑）

藤永：褒め過ぎですよ（照）

柳田：ただ、これは本当に伝わっていると思うのですけれども、たぶん画面で見ている通りの先生なので、そこはぜひ信頼していただいて、参加していただきたいと思うのと、逆に、これだけの先生とサポートと揃っていますので、あとは自分自身が英語を使って何をやりたいかっていうのをしっかり考えながら、楽しみながら、取り組んでいただきたいなと思います。NS6+で待っています。

平山：今のここまでご覧になっていただいている皆さん方の気持ちの中には、いろいろな悩みだったりとか、迷われている点とかたくさんあると思います。

今の自分の英語のレベルで大丈夫なのかしらとか、私は凄く忙しいけれど続けられるかしらとか。でも、安心してください。1期生のお二人のコメントにすべて凝縮されていたと思います。藤永先生を始めといたしまして、ショウガを食べながら夜も寝ずに、どんなに皆さんが苦しい状況になっても、必ずこの NS6 のファミリーがサポートしますので、安心してついてきていただければと思います。一緒にこのファミリーになって、楽しい時間を過ごしていきましょう。よろしくお願いします。

藤永：今まで動画を見ていただいて、ありがとうございます。長かったと思います。この動画で私の気持ちは伝えることができたんじゃないかなと思っています。これもすべて 1 期生の皆さんに、この場をお借りして、ちょっと言いたいんです。1 期生が終わってからバイバイじゃなくて、1 期生の皆さんに本当に感謝して、それがあったからこそ 2 期生の皆さん。これがまたより良い環境とサポートを受けて上達へ向かっていけるということです。これは常に私が思っていて、2 期生の皆さんもいろいろなリクエストだったり、こういうことをやってほしいという要望が出てくるかと思っています。いつでもご連絡ください。

私達ができるのはそれぐらいなので、皆さんの上達、これをサポートしたい一心です。もちろん私だけじゃないです。私が主役じゃないので。皆さんが主役です。皆さんが主役になったつもりで、それで何かがあるのであれば、いつでもご連絡いただければと思います。ぜひ NS6+ でお会いしたいと思っています。なんかでも、寂しくなるんです、こういうメッセージを言うと。なんか終わりのような気がして。なんか 1 期生とバイバイするような気がするんですよ、僕の中で。それくらい密に接してきた証拠なのかなって想いもあります。本当にまた新たなスタート。NS6+ で 2 期生とお会いしたいと思っていますので、ぜひぜひご参加ください。1 人じゃないです。皆がサポートしています。それだけは忘れないでほしいなと思っています。すみません。以上です。

渕野：じゃあ最後。終わりになりますので、最後は明るく〆ていきましょう。

藤永：中川さんたちも入って。

柳田：どうぞ。また来てもらいますか、関西から。

中川：ハワイに。

藤永：また再登場で。最後、一緒に。いつもの。

渕野：いつもので終わりましょうかね。

全員：ありがとうございましたー！待ってまーす！

レッスン4をご覧ください、誠にありがとうございます。

下記 URL より最優先案内へのご登録をお願いいたします。

最優先案内にご登録いただきますと、一般募集より6時間早くお申し込みが可能となっております。

ぜひ最優先案内にご登録ください！

☆最優先案内へのご登録はこちら☆

⇒ http://www.ns6.jp/lesson/?page_id=851

